

2020(令和 2)年度  
富士山エコレンジャー環境パトロール報告

2021(令和 3)年 6 月

富士山エコレンジャー連絡会

## 富士山憲章

- 1 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

静岡県・山梨県

**富士山エコレンジャーを知っていますか**  
富士山の自然環境を保全する活動に賛同している団体の集まりである「ふじさんネットワーク」の会員であり、富士山にて自然環境保全に係る様々な活動をするボランティアです。

登山マナーの啓発  
富士山の自然や動植物の解説

**環境パトロール**

**富士山エコレンジャー 証明書**  
この富士山エコレンジャーとして登録した者であることを証明する。  
ふじさん ネットワーク  
エコレンジャー証明書

**腕章**  
この腕章を見つけたら、ぜひ声を掛けてください。

**活動報告**

**お願いします!**

**環境パトロールを通じて**  
「富士山を訪れる方に、  
①自然環境への負荷を減らし  
②安全に  
富士山を利用してもらい、  
富士山の現状を広く共有する」  
ボランティア保全活動

### 表彰

環境省「富士箱根伊豆国立公園指定 80周年記念功労者」2016年(平成28年)

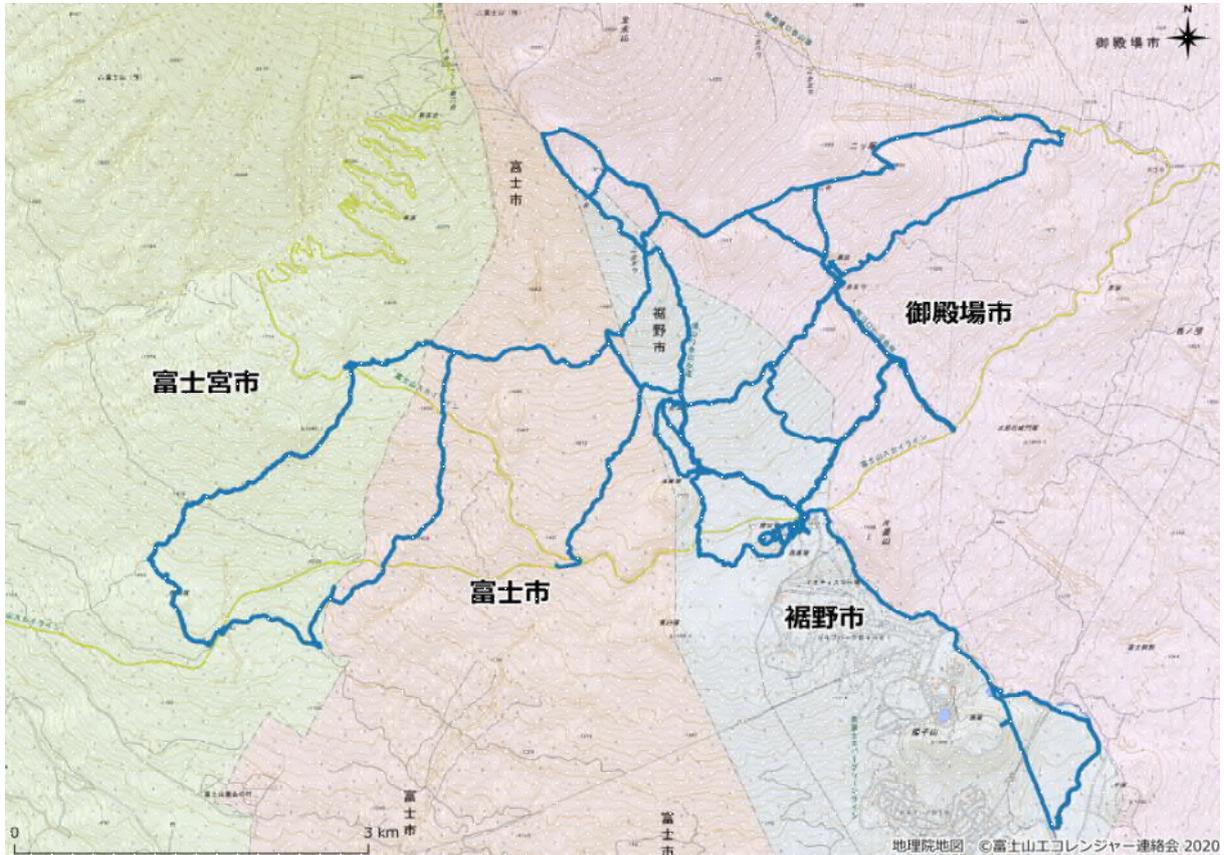
(公財)日本自然保護協会「日本自然保護大賞」2017年度、2019年度入選

富士山エコレンジャー連絡会

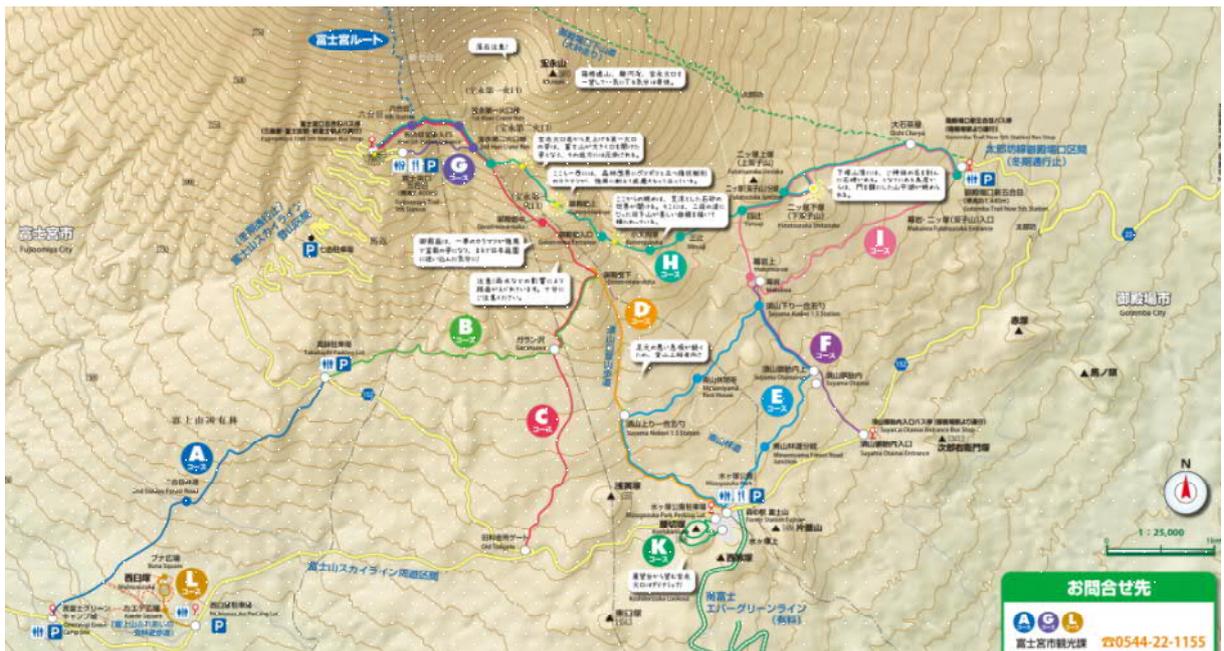
1. 環境パトロール (2020年4月～2021年3月)

1-1 環境パトロール区域(図中青線部分)

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、全期間を通じて富士宮口、御殿場口、須走口の各登山道(県道)は閉鎖された。また、富士山南麓の富士山自然休養林ハイキング・コースは部分的に立ち入り規制された。2020年度の環境パトロールは富士山南麓に位置する富士山自然休養林ハイキング・コースを中心に行った。なお、立ち入り規制のコースは管理者の許可を得て実施した。



(図 2020年度の環境パトロール・コース)



(図 富士山自然休養林保護管理協議会「富士山自然休養林ハイキングマップ」より)

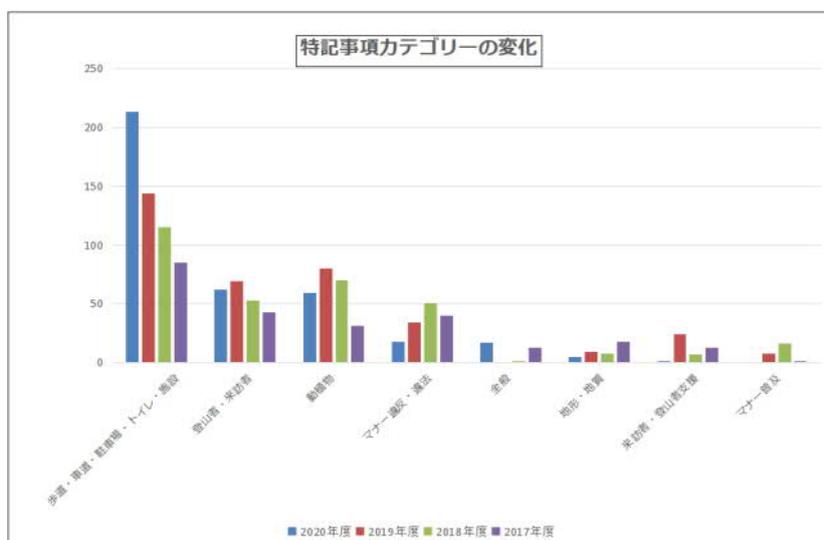
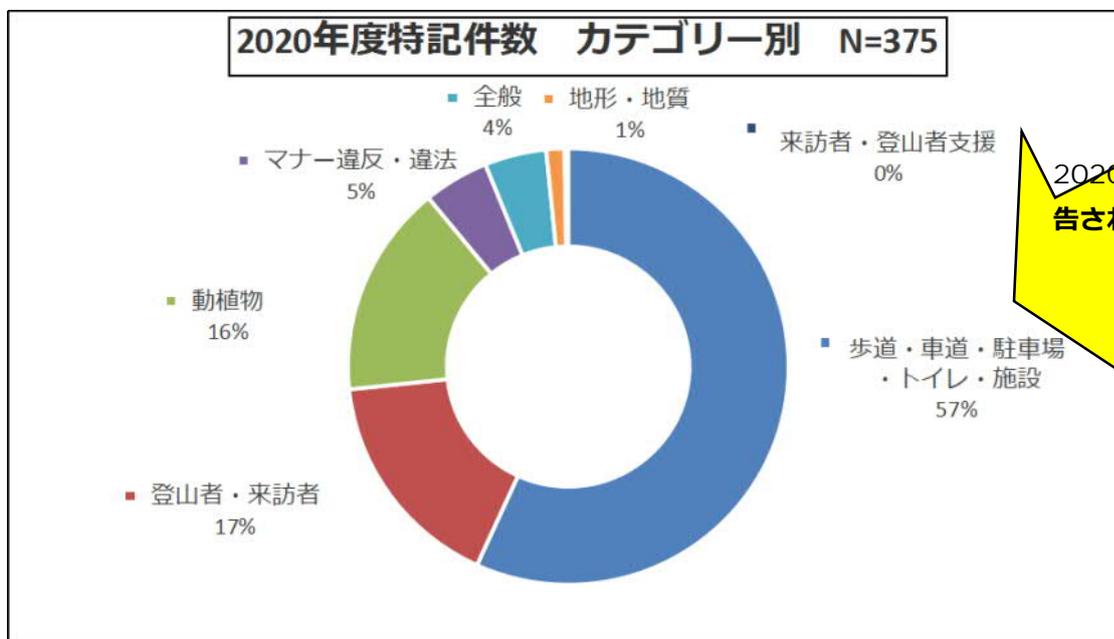
## 1-2 環境パトロール履歴

合: 合同環境パトロール、環: 環境パトロール、アルファベットは富士山自然休養林のハイキング・コース

- ①2020年6月15日 環 西臼塚駐車場、水ヶ塚公園、須山御胎内入口、太郎坊洞門
- ②2020年6月20日 合 須山口登山歩道(弁当場→大調整池→黒塚→弁当場)
- ③2020年6月28日 環 西臼塚駐車場、水ヶ塚公園、須山御胎内入口
- ④2020年7月22日 環 須山口登山歩道(水ヶ塚公園～弁当場)
- ⑤2020年7月28日 環 E(水ヶ塚公園、須山口登山歩道 1.5 合、幕岩、御胎内、水ヶ塚公園)
- ⑥2020年8月8日 環 D(水ヶ塚公園、御殿庭下)
- ⑦2020年8月15日 環 F(御胎内入口、幕岩)、E(須山口下山歩道 1.5 合、南山林道、須山御胎内上)
- ⑧2020年8月17日 環 E(水ヶ塚公園、須山口御胎内、幕岩、須山口登山歩道 1.5 合、水ヶ塚公園)
- ⑨2020年8月22日 合 D(水ヶ塚公園、御殿庭下)、C-2(御殿庭下、ガラン沢、旧料金所ゲート)
- ⑩2020年8月22日 環 K(水ヶ塚公園、腰切塚周遊)
- ⑪2020年9月5日 合 C-2(旧料金所ゲート、ガラン沢)、B(ガラン沢、高鉢駐車場)、A(高鉢駐車場、西臼塚駐車場)
- ⑫2020年9月5日 合 大淵林道、いわゆる村山口登山道、B(歩道交差、高鉢駐車場)、A(高鉢駐車場、西臼塚駐車場)
- ⑬2020年9月9日 環 K(腰切塚)、D、H、F、E(水ヶ塚公園、御殿庭下、三ツ辻、幕岩上、南山林道、水ヶ塚公園)
- ⑭2020年9月21日 環 D、C-1(水ヶ塚公園～須山上り一合五勺～御殿庭下～宝永火口縁)、H(宝永第二火口縁～三辻+幕岩分岐間)、F、E(幕岩分岐～須山御胎内～水ヶ塚公園)
- ⑮2019年10月14日 環 D/E(水ヶ塚公園、須山口登山歩道 1.5 合、水ヶ塚公園)
- ⑯2020年10月31日 環 F、I(御胎内入口～幕岩上～二ツ塚下塚～御殿場口新五合目～幕岩～御胎内入口)
- ⑰2020年11月9日 環 D/E、C、H(水ヶ塚公園、須山口登山歩道 1.5 合、ガラン沢、御殿庭下、宝永第二火口縁、御殿庭上、御殿庭入口、御殿庭下、水ヶ塚公園)
- ⑱2020年11月14日 合 F、I(御胎内入口～幕岩上～二ツ塚下塚～御殿場口新五合目～幕岩～御胎内入口)
- ⑲2020年11月14日 環 D、H、C(水ヶ塚公園～宝永第二火口縁～ガラン沢～水ヶ塚公園)
- ⑳2020年11月15日 環 須山浅間神社～弁当場～フジバラ平～水ヶ塚公園
- ㉑2020年11月21日 環 D、C、H、I、F、E(水ヶ塚公園～ガラン沢～御殿庭下～御殿庭入口～四辻～幕岩上～水ヶ塚公園)
- ㉒2020年12月5日 合 「いわゆる村山口登山道」、B、A、L(西臼塚駐車場、大淵林道、八幡堂、大縦、高鉢駐車場、二合目林道、西臼塚駐車場)
- ㉓2020年12月19日 環 B、C(旧料金所～村山道～Bコース分岐～ガラン沢～旧料金所)
- ㉔2020年12月23日 環 D/E、K(水ヶ塚公園、須山口登山歩道 1.5 合目、浅黄塚、腰切塚、水ヶ塚公園)
- ㉕2020年2月11日 環 D/E、K(水ヶ塚公園～須山口登山道～浅黄塚～旧東臼塚歩道～水ヶ塚公園)

1-3 カテゴリー別報告内容

	カテゴリー	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
①	歩道・車道・駐車場・トイレ・施設	213	144	115	85
②	登山者・来訪者	62	69	53	43
③	動植物	59	80	70	31
④	マナー違反・違法	18	34	51	40
⑤	全般	17	0	1	13
⑥	地形・地質	5	9	8	18
⑦	来訪者・登山者支援	1	24	7	13
⑧	マナー普及	0	8	16	1
	合計	375	368	321	244



環境パトロール中に、「自然環境への負荷」や「来訪者の安全面」での気づきを報告書に記載した。その気づきを、カテゴリー別に集計した。

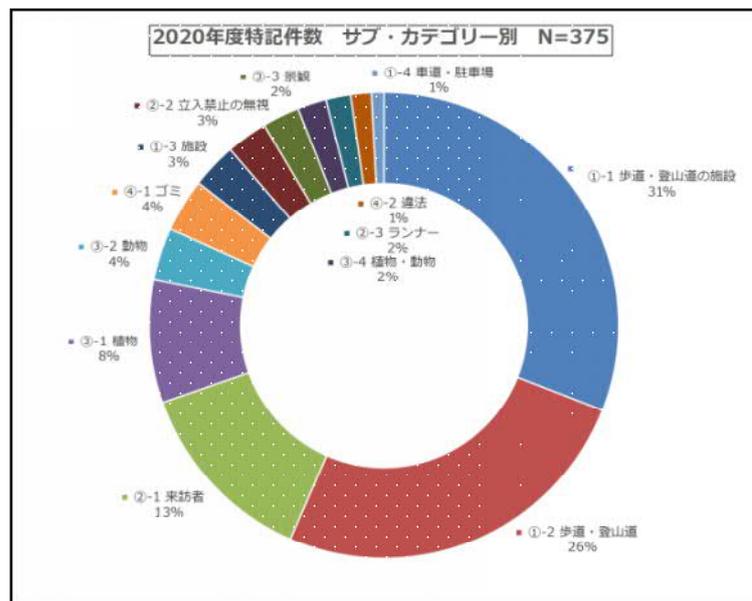
2020年度は昨年と比べて「登山者・来訪者」と「動植物」カテゴリーのランクが入れ替わった。

2. 要約

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、はじめて登山道が閉鎖され、富士山自然休養林のハイキング・コースも一部立ち入り規制された。このため富士山エコレンジャーは須走口周辺を除く自然休養林ハイキング・コースとマウントフジ・ウルトラトレイル植生保全環境調査地の須山口登山歩道の環境パトロールを行った。閉鎖、立ち入り規制のため、環境パトロールの延べ日数は半減したが、報告の気づき数は、ほぼ同等だった。

自然休養林のハイキング・コースを中心に環境パトロールした結果、気づいた点は以下の通り。

	サブ・カテゴリー	件数
①-1	歩道・登山道の施設	109
①-2	歩道・登山道	90
②-1	来訪者	46
③-1	植物	30
③-2	動物	13
④-1	ゴミ	13
①-3	施設	11
②-2	立入禁止の無視	10
③-3	景観	9
③-4	植物・動物	7
②-3	ランナー	6
④-2	違法	5
①-4	車道・駐車場	3



標識や歩道階段などの「歩道・登山道の施設」関連が最も多い(31%)。標準標識の破損、標識や案内図で使われる地名の誤解を生みやすい使用など来訪者の安全に直接関わるものがある。また、丸太階段の腐食や、本来の標準標識が適切に設置されているにも関わらず、乱立するピンクのビニール・テープなど私的マーキングの報告も多い。さらに、コロナ禍限定の立入禁止表示やホームページでの情報発信についても含まれる。

ついで2番目は、ハイキング・コースや登山道自体の「歩道・登山道」の侵食、拡幅、複線化などが続く(26%)。

富士山南麓では、地形・地質・気象など自然環境の影響により、スラッシュ雪崩、土石流や侵食、崩壊・崩落箇所が多い。歩道も大雨になると川となり、激しく侵食が進む場所がある。加えて、従来は想定されていなかった「走行」や「富士下山」に代表される歩道に大きな負荷をかける利用者の急増により、人為による侵食が加速化している。人手をかけて補修した道は、歩きやすく安心して本来の景観や自然に親しめる。しかし、自然侵食に人為侵食も加わり、なかなか補修が追いつかず、躓いたり不安定な歩道が増えていて、安心して自然に親しむことが難しいのが現状だ。

一旦歩道が荒れ通過しづらい箇所ができると、来訪者はそこを回避するため歩道が拡幅したり、複線化が進む。人が歩道外へ入り込むため、歩道周辺の貴重な植生が損傷した箇所が散見される。また、幾筋もの踏み跡ができ、来訪者は道迷いを起こしやすく、来訪者の安全を損なっている。

さらに、来訪者が自然に親しむための国有林内は、二ホンジカ増加などの影響で林床を覆っていたスズタケが消失し、どこまでも見通しが効く状態だ。時間を競うランナーをはじめ来訪者は、補修が遅れて通過しづらい本来のハイキング・コースを外れて、見通しが効く林内に踏み込み、植生

を損傷しながら通過しやすい直線的な踏み跡を幾筋も残す。その踏み跡に、ピンクのビニール・テープなど管理者が不明な私的マーキングを多数設置し、結果的にその踏み跡へ他の来訪者を誘導して複線化、植生損傷を進めている。

富士山では、地元自治体によるスポーツ観光利用が推進されている(注 1)。森林生態系を保護する目的で国有林内に設定された富士山生物群集保護林の中でさえ、踏み跡をトレイルランニングのコースに利用し、時間を競うタイムトライアルが行われ、その情報がネット上に拡散されている。ランニング利用者が跡を絶たず、歩道外の土壌侵食や樹木根の露出・踏みつけなど植生損傷を生じている(注 2)。

#### (注 1) 自然環境保全地域での地元自治体によるスポーツ観光利用の現状

富士山南麓の地元自治体ではスポーツ観光施策を通じて富士山南麓の自然環境利用を推進している。主なものだけでも、ランニングを中心に多岐にわたる。

- 御殿場市①トレイルステーションやネット(ランドネ等)による自然休養林でのトレイル・ランニング推進、②市内にウルトラトレイル・マウントフジ(以下 UTMF)大会のコースが無いのに主催継続、③「富士登山駅伝競走大会」での御殿場口登山道(歩道)の利用。
- 裾野市①水ヶ塚周辺の「準高地トレーニング場」化、②水ヶ塚公園の腰切塚麓に「クロカン・コース」設定
- 富士市の①UTMFの主催、②「富士山登山ルート 3776」でのトレイル・ランニング推進。
- 富士宮市①UTMFの主催。
- 小山町①「富士箱根トレイル」トレッキング・コースのトレイル・ランニング利用。

#### (注 2) 大規模トレイル・ランニング・レースの環境調査からの知見

2012年以降、私達が継続的に実施した「ウルトラトレイル・マウントフジ植生保全環境調査」から、富士山南麓でのトレイル・ランニングに起因する荒廃について分かってきたことがある。

- ①富士山南麓の自然環境で、歩道の支持力を超えた大規模利用を繰り返すと、利用した歩道は荒廃が頻発し激化する。一旦、荒廃すると原状回復が困難なケースも発生し、修復に多大な労力を必要とする。
- ②富士山が「競走場」と化している。国立公園内でランナーが増加し、タイムトライアル・レースが数多くおこなわれている。自然休養林では、侵食で荒廃した歩道の整備が追いつかず、通過しづらくなった歩道を避けて、歩道外の植生損傷(歩道の拡幅や複線化)が多発している。

今年度は登山道閉鎖やハイキング・コース立入禁止区間があったため、「来訪者」の利用状況が3番目に多く報告されている(13%)。来訪者は新型コロナの非常事態宣言の解除前後まで少なかったが、9月までは増加傾向になった。しかし、例年に比べると来訪者は少ない。

4番目の「植物」(8%)は、年々広がる外来植物、国内外来植物が今年度も報告された。特定の場所での外来植物が毎年繰り返し報告され、外来植物の駆除活動が追いついていない。富士山周辺での「ナラ枯れ」拡大が報道されているが、今年はあらたに自然休養林の標高 1,500m 付近までミズナラの「ナラ枯れ」が広がった。休養林の林床景観を一変させたスズタケの消失は、依然として広く見られるが、場所によってはスズタケの実生が群生して回復している事例が報告された。

5番目は「動物」と「ゴミ」が並んだ(各 4%)。

動物では、富士山南麓の森林生態系に大きな影響を及ぼしているニホンジカの痕跡はあるものの目撃回数が減った。須山口登山歩道 1.5 合目付近では、センサーカメラの記録でも 8 年前に比べてニホンジカの撮影頻度が減少している。

自然休養林のハイキング・コースでは一部立ち入り規制されていても、来訪者由来と思われる一定数のゴミを回収した。過去何年も報告している、個人では搬出が難しい大量の残置物が火山荒原や調整池に残されたままだ。来訪者の通行に支障があったり、景観を損ねている。

2021年6月30日

7番目の「**施設**」(3%)では、リニューアルされた御殿場口の公衆トイレ(エコトイレ)などが報告された。自治体の判断でハイキング・コースを開放する際は、ぜひ、トイレも利用可能にしてほしい。

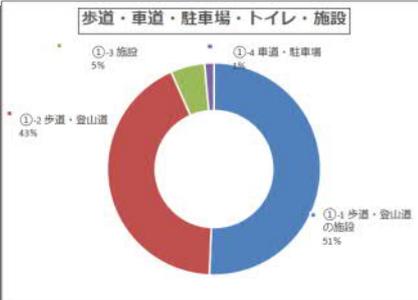
8番目の「**立入禁止の無視**」(3%)とは、ハイキング・コースに立入禁止の案内があるにもかかわらず、それを無視して侵入した来訪者の報告だ。水ヶ塚から宝永火口縁と御殿場口方面から宝永火口縁までは、立入禁止の協力要請があっても、多くの来訪者が訪れたようだ。御殿庭下に設置された立入禁止テープが度々切断された。

## 環境パトロールの気づき 詳細編

① 歩道・車道・駐車場・トイレ・施設	12 頁
①-1 歩道・登山道の施設	12 頁
①-2 歩道・登山道	29 頁
①-3 施設	46 頁
①-4 車道・駐車場	47 頁
② 登山者・来訪者	48 頁
②-1 来訪者	48 頁
②-2 立入禁止の無視	50 頁
②-3 ランナー	51 頁
③ 動植物	52 頁
③-1 植物	52 頁
③-2 動物	58 頁
③-3 植物・動物	61 頁
④ マナー違反・違法	63 頁
④-1 ゴミ	63 頁
④-2 違法	64 頁
⑤ 全般	65 頁
⑥ 地形・地質	66 頁
⑦ 来訪者・登山者支援	66 頁

## ① 歩道・車道・駐車場・トイレ・施設

歩道・車道・駐車場・トイレ・施設		213
サブ・カテゴリー		件数
①-1	歩道・登山道の施設	109
①-2	歩道・登山道	90
①-3	施設	11
①-4	車道・駐車場	3



## ①-1 歩道・登山道の施設

新型コロナウイルス対策で登山道が閉鎖され、ハイキング・コースも立入り規制されたため、フィールド活動は昨年度に比べて半減した。しかし、環境パトロール中の気付きの数は全体では昨年度とほぼ同数だった。「歩道・車道・駐車場・トイレ・施設」関連の気付きが最も多く、今年度の気付き全体の57%を占め、昨年度に比べておよそ5割増加した。降雨量が年間3,000mを超え、側火山の火山堆積物や急傾斜が多く崩れやすく、ニホンジカの急増も林床植生や土壌侵食に影響している富士山南麓では、富士山自然休養林ハイキング・コースの歩道やその施設の保全管理の重点的推進が、来訪者の安全と歩道周辺の自然環境保全の為に喫緊の課題であることを示している。

## ①-1-1 歩道や標識の修復・整備 (太字は複数年報告の気付き、カッコ内の英字は休養林コース)

私達の環境パトロールで過去に報告した「歩道の荒廃」や協議会「標準標識の損傷」などが、幾つかの地点で修復・整備されていた。環境パトロール報告が歩道や標識の修復・整備につながり、来訪者の安全、歩道周辺の植生保全に寄与できると実感することができ、ボランティア活動の「やりがい」を感じる。

## 詳細

- ・昨年4月のパトロール時に整備中だった大調整池付近の登山道は、整備が終了し歩きやすくなっていた。運搬用モノレールは撤去されていた。(6月、須山口)
- ・2年前に比べ、黒塚東斜面の丸太階段は修復されていた。(6月、須山口)
- ・本来の須山口登山歩道上で歩きづらい段差の一部や樹木根の隙間に石が積まれ、部分的な修復が行われていた。(11月、D/E、写1)
- ・宝永第三火口「御殿庭上」周辺で外れていた標準標識の誘導板が補修されていた。(11月、H)
- ・須山浅間神社から弁当場まで「須山登山歩道」の標識があり、登山歩道上の倒木がどけられたり、侵食が激しくて歩行が困難になっている場所では迂回路の印(テープやロープで)があり歩道も歩き易い。(11月、須山口)
- ・宝永第三火口から御殿庭入口までの歩道は、水切りが付けられている。(11月、C、D)
- ・世界文化遺産構成要素の須山口下山歩道では小石がまとめられ水切りとなり、たいへん歩き易くなった。(11月、F、写2)
- ・幕岩の急坂ではロープ張り直し、侵食部補修、倒木や危険樹木除去が行われた。(11月、F/I)
- ・雨水が歩道外に排水されるように水切り溝が設けられていた。(11月、D)
- ・9月に倒木で分からなかった日沢横断迂回路が、倒木の枝が払われ明瞭になった。(12月、B)
- ・水切りなどを設置しミズ道化による荒廃を防ぐ保全作業が行われている。(12月、村山口)
- ・腰切塚歩道は、展望台改修工事に幅が約2mに拡大され簡易舗装されていた。(12月、K)



(写1 侵食された樹木根の隙間に石積み)



(写2 歩道の片側を水切り用に石を配置)

### ①-1-2 協議会の標準標識、ロープ、注意喚起

環境パトロールを通じて、来訪者の安全の為に、協議会の標準標識に表記された地名の統一や修正、標準標識の新たな設置の必要性、標準標識の補修などが報告された。

#### (1)標準標識や注意喚起における地名や形状の統一・修正

「御殿庭上」の地名統一(注3)

行き先地名「御殿庭」の修正(注4)

「ガラン沢」標識の地名修正

旧料金所ゲートの案内図、標識

「熊出没注意」表示の統一

#### (2)あらたな標準標識の設置

「須山御胎内上」(注5)

須山口登山歩道 1.5 合目・御殿庭下間の簡易標識

須山口登山歩道の浅黄塚分岐から須山口登山歩道 1.5 合目

#### (3)標準標識の倒壊補修など

三辻・幕岩上連絡路の標識根本露出

宝永第二火口縁(旧「山体観測装置」)の標識

火山荒原に設置された標識

高鉢駐車場東側の倒壊した標識

御殿場口第一駐車場近くの幕岩方面との分岐点の標識と案内ロープ

**45度ひねって設置された四角柱の標識(注6)**

不鮮明な協議会「頭上注意」の注意標識

御殿庭入り口近くの転落防止ロープの支柱折損

(注3)「御殿庭上」の地名統一

Cコースの須山口登山歩道には、富士山須山口登山歩道保存会と協議会の登山案内図・標準標識が併設されている(富士山須山口登山歩道保存会は協議会の構成員)。これらの案内板・標識のなかで「御殿庭上」という地名が異なる場所に使用され、来訪者の混乱を招いている。宝永第三火口西側のCコース(須山口登山歩道)に、保存会の「御殿庭上」(標高2,270m)標識がある。一方、宝永第三火口東側、H(宝永火口縁～二つ塚～御殿場口新五合目)コースに、協議会の「御殿庭上」(標高2,170m)標準標識がある。両者は直線距離にして約500m近く離れており、登山道を歩けば30分～50分の距離にある。

長年、現状や来訪者の要望を報告し地名の統一をお願いしているが、対応されていない。あらためて検討をお願いしたい。



(保存会歩道案内 Cコース登山歩道に「御殿庭上」)



(協議会の歩道案内図 Hコースに「御殿庭上」)



(Cコースの保存会標識「御殿庭上」、標高2270m)



(Hコースの協議会標準標識「御殿庭上」、標高2170m)



(須山御胎内入口にある保存会案内図の「御殿庭上」)



(須山御胎内入口にある協議会案内図の「御殿庭上」)

Cコース(須山口登山歩道)は、富士山における適正利用推進協議会の「富士山における標識類総合ガイドライン」でいう、「宝永山御殿庭線」にあたり、同ガイドラインの適用範囲であり、標識や地名の統一などガイドライン遵守が要請される。利用者の安全と利便を確保するとともに、秩序ある良好な風致景観を維持及び形成するため、富士山における適正利用推進協議会の構成関係行政は、標識の統合と地名の統一などを指導するようお願いしたい。なお、この件は2011年から報告書を通じて再三、改善をお願いし続けている。

(注4)行き先地名「御殿庭」の修正

協議会の標識では、本来、「御殿庭下」と表示すべきところを、「御殿庭」と表示している。「御殿庭」は総称で協議会の歩道案内図に行き先地名としてはない。「御殿庭」では、「御殿庭(下)」、「御殿庭(中)」、「御殿庭(上)」、「御殿庭入り口」のいずれを指すのか分からない。「御殿庭」のどこを指すかによって所要時間が最大 85 分も変わるので、所要時間が記された協議会の歩道案内図に合わせて個別の「御殿庭下」と表記してもらいたい。

総称「御殿庭」は、御殿庭入り口、御殿庭(上)、旧山体観測装置、御殿庭(中)、須山口・ガラン沢分岐、四辻、二ツ塚分岐、幕岩の各標準標識で使われている。この件も協議会に対応をお願いしたい。



(左側の矢印に「御殿庭」、時間から「御殿庭下」か) (右手前の矢印に「御殿庭」、時間から「御殿庭下」か)



(四辻の「御殿庭」表示)



(二ツ塚分岐の「御殿庭」表示)



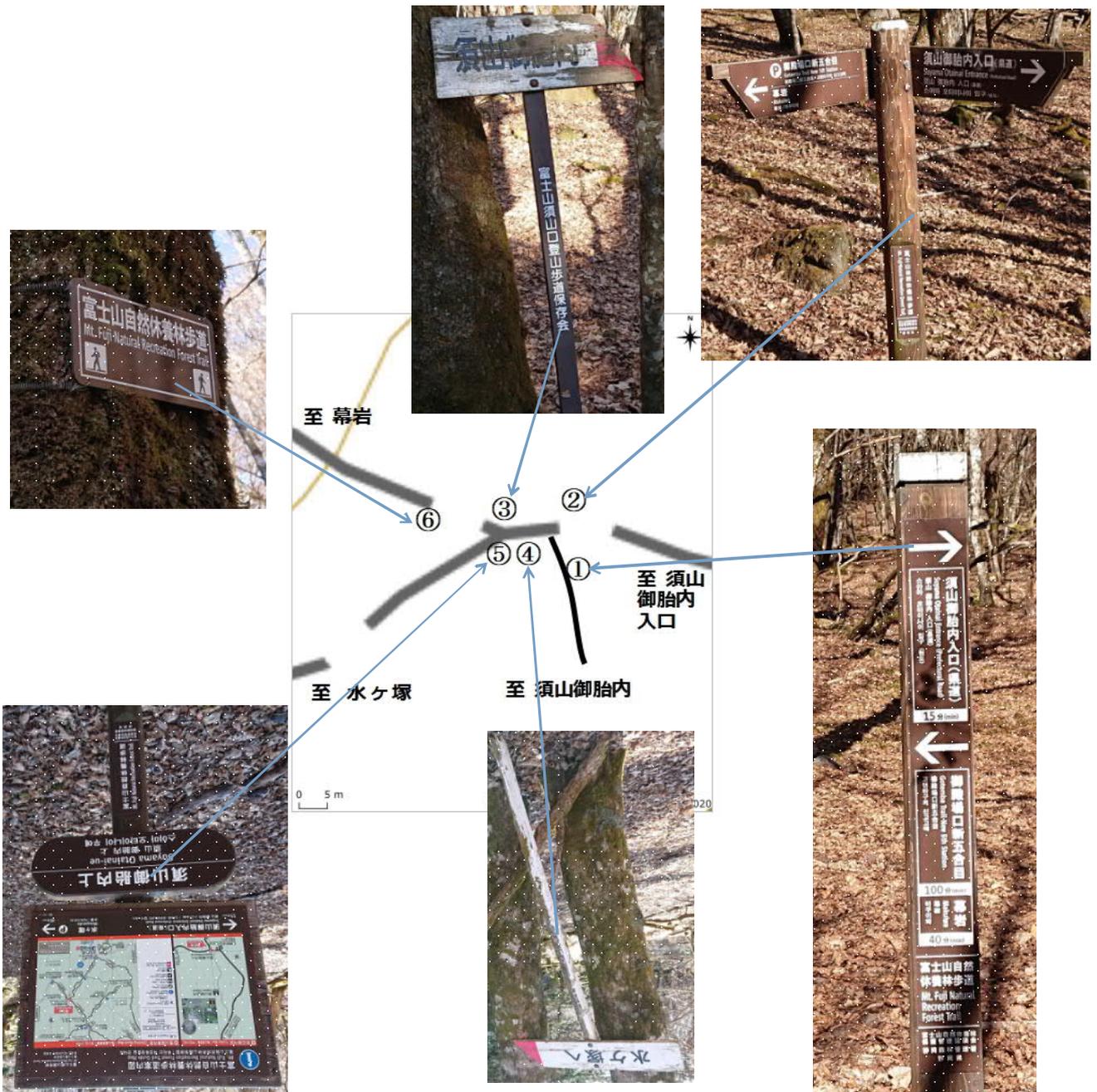
(幕岩の「御殿庭」表示)



(協議会の歩道案内図。この図に「御殿庭」という地名はない。各地名間の所要時間が示されている)

(注5)「須山御胎内上」の標識設置

須山御胎内上にある変則的な四差路に、保存会標識や協議会案内図、協議会標識が6つも設置されているが、「幕岩」方向が分かりにくい。須山御胎内上から須山御胎内入口方面へ行ったら「幕岩」方向を示す協議会標準標識①、また、須山御胎内上から須山御胎内への踏み跡道に「幕岩」方向を示す協議会標準標識②がある。しかし、その「幕岩」方向を示す先に、水ヶ塚と幕岩との分岐があり、ここには、協議会標準補助標識⑥はあるものの、須山御胎内上から「幕岩」方面を示す標識がない。従って、須山御胎内入口方面、須山御胎内、水ヶ塚方面から、須山御胎内上に出たときには、「幕岩」の方向が分かりにくく、協議会の案内図⑤をよく見る必要がある。



**(注6) 45度ひねって設置された四角柱の標識**

直線状のコース途中にある柱状標識。矢印が右に向いており、右方向に進路が変わるものと思われた。反対方向から見ると左向きの矢印。真横から見ると45度ひねって建てられ、それぞれの方向から矢印が見えるようにした簡易な標識だと分かる。Cコースには同様の標識が4か所あった。林内は、スズタケの消失によってどこへでもいける状況で落葉に歩道も覆われており、誤認が生じないように表示方法の統一・工夫をお願いしたい。(他の標準標識では、進行方向は上向きの矢印で表示されている)



(右向きの矢印)



(反対方向から見る)



(真横から見る)

**詳細**

- ・須山御胎内上の分岐点に幕岩方面を示す標識がない。設置を要望したい。(8、11月、F、注5)
- ・自然休養林コースの途中に今歩いているのは何コースかの表示がほしい。(8、9月、C-2、D)
- ・登り一合五勺から御殿庭下間で、なだらかな下の方には標準標識がなかった。幾筋もの踏み跡がある。登山歩道を整備し、標準標識を設置するまでの期間、管理者名やコース名、行き先を明示した公共(協議会)の簡易マーキング設置が必要。(8、11月、D)
- ・旧料金所ゲートに入口の標識が立っているが、進むとすぐに大きく崩れて通行困難な場所に出る。新しい脇道へ標識の場所をずらすなど当面の対策が必要。(8月、C-2、写3)
- ・西臼塚駐車場への分岐点に案内図や駐車場への標識がない。整備が望まれる。(8月、A)
- ・標識の根元が侵食により露出している。標識の倒壊につながりかねない。恒久的な改修を要望したい。(9月、三辻・幕岩上連絡路、写4)
- ・浅黄塚分岐から須山口1.5合目までの比較的長い600mの区間には、行き先を表示した標準標識は見当たらない。(10月、D/E)
- ・協議会と保存会の案内板・標識のなかで「御殿庭上」という地名が異なる場所に使われ、来訪者の混乱を招いている。統一してほしい。(9月、C、D、F、H、注3)
- ・協議会の標識では『御殿庭』が行き先地名で表示されている。『御殿庭』は総称であり協議会の歩道案内図に行き先地名として表示されていない。『御殿庭』では、「御殿庭(下)」、「御殿庭(中)」、「御殿庭(上)」、「御殿庭入り口」のいずれを指すのか分からない。『御殿庭』のどこを指すかにより案内板が示す所要時間が最大85分変わる。修正してほしい。(11月、C、D、H、I、注4)
- ・宝永第二火口縁(旧「山体観測装置」)の標識は昨年「倒れたまま残置」と報告したが、今回、本来の位置より、南側の斜面約30mの位置に移動。整備を要望したい。(11月、C、H、写5)
- ・火山荒原に設置された標準標識は、厳しい気象条件のため、表面が摩耗して読みづらかったり、一部破損している。(11月、H/I、写6)
- ・高鉢駐車場近くの標準標識の基礎が侵食により倒壊していた。(9、12月、B、写7)
- ・Cコースでは、標識について一部誤解を与える表記となっている。これは直線状のコースの中間地点に設置されている柱状標識。一方から見ると右向きの矢印が表示されているため、この地点から右方向に曲がるものと思ったが、道は前方にまっすぐ続いている。標識の真横に立ってみると、四角柱の標識が45度ひねって設置され、それぞれの方向から矢印が見えるように

- したものであった。(12月、C、注6)
- ・Cコースでは要所に赤い杭(境界表示か)が設置され分かりやすい目印となっている。可能ならこのような方法を全ルートに採用し整備していただくよう要望したい。(12月、C)
  - ・B・Cコースの合流点となっている「ガラン沢」と表示されている地点は、地形図上のガラン沢からは250m離れている。変更を検討いただきたい。(12月、B、C)
  - ・トラロープの杭が抜けてしまった所があった。(9月、A、B)
  - ・御殿場口第一駐車場近くの幕岩方面との分岐点にある案内標識とロープ杭が破損している。また途中の砂礫上ルートが不明瞭となっているため、早急な対策が望まれる。(10月、I、写8)
  - ・過去に使われた管理者(保存会、御殿場市、裾野市商工会)の異なる標識が残置され使用されていた(11月、F、I)。
  - ・御殿庭入口近くの涸れ沢沿い箇所(標高2,000m付近)では、転落防止ロープの支柱が根本から折れ曲がっている。転落防止ロープの支柱折損については、ロープが地面に接してしまい機能していないため、来年度に向けて改修を要望したい。(9月、H、写9)
  - ・幕岩の急坂では新たにロープが設置され複線化の防止に役立っているが、たわみが大きい部分もあり改善が望まれる。(10月、F/I)
  - ・二ツ塚～御殿場口間で砂礫で覆われ誘導ロープが埋没した箇所を確認した。ロープが移動し歩道をはずれ斜面に誘導するガイドロープが見られた。(10、11月H/I)
  - ・標識「ガラン沢」付近のロープが歩道を横断する形になっており改善が望まれる。(11月C-2)
  - ・現在立入禁止になっているコースでは、解除するときには危険な場所にはロープを張るなどの対策が必要。(12月、A)
  - ・協議会「頭上注意」の注意標識が不鮮明。(10月、I、写10)
  - ・Fコース入口にある「熊出没注意」の掲示は、協議会名が明記されている。一方、幕岩上などの「熊出没注意!」には、掲示者名がない。掲示者名を明記するか、協議会の「熊出没注意」掲示板を使用するなど統一したほうが来訪者は安心する。(11月、I)
  - ・大淵林道のゲートや村山口のスカイライン周遊区間交差に、「“熊”出没中に付き危険。周辺にて目撃情報多し」表示があり、2020年8月30日撮影の子連れのみグマの写真と説明が載せてあった。高鉢駐車場のAコース入口には、「“熊”出没中、危険につき立ち入り禁止」の表示があり、2020年5月29日撮影のツキノワグマの写真が載せてあった。写真があると注意喚起の効果が高い。(12月、大淵林道、村山口、A、写11)
  - ・須山口入り口近くに設置されていた協議会の「熊出没注意」の掲示板が破損している。重要な注意情報が来訪者に伝わらない。(12月、D/E、写12)



(写3 旧料金所ゲートに入口の標識。新しい脇道へ標識の場所をずらすなど当面の対策が必要)



(写4 標識の根元が侵食により露出、倒壊の恐れ)



(写5 旧山体観測装置の標識、南斜面約30m下に移動)



(写6 火山荒原の標識は表面が摩耗し読みづらい)



(写7 標準標識の基礎が侵食により倒壊)



(写8 御殿場口第一駐車場近くの標識とロープ杭が破損。また途中の砂礫上ルートが不明瞭)



(写9 転落防止ロープの支柱折損)



(写10 「頭上注意」の注意標識が不鮮明)



(写11 分かりやすい写真付の注意表示)



(写12 「熊出没注意」の掲示板が破損)

①-1-3 私的マーキング

歩道が自然侵食などで歩きづらくなり、まだ補修されていない箇所には、植生部分に踏み込む迂回の踏み跡がで、そこに目印のビニール・テープがつけられている。一方、歩道も標識も整備されている区間に、派手なピンク色の大量の私的マーキングが設置され、風致景観を損なっている。200を上回る私的マーキングの位置を下図で示す。ローマ数字(I~IV)は、同じ特徴の私的マーキング群。緑色の区域は国有林の富士山生物群集保護林



**I群** 国有林富士山生物群集保護林内。歩道に侵食による通過困難箇所があり、歩道の脇に踏み跡ができ複線化した区間。林床のスズタケが枯れ、林内の見通しが効き、どこへでも行ける。通過(走行)しやすい直線的な踏み跡を私的マーキング(ビニールや木に直接ペイント)が誘導し植生を損傷している。10月14日以降、私的マーキングが増加した。この区間は、トレイルランのタイムトライアルに使われている。本来の登山歩道補修が行われれば、迂回路と私的マーキングは必要なくなる(①-2-2 通過困難箇所の回避などによる歩道の拡幅・複線化、周辺植生の損傷を参照)。



**II群** 以前あったDコースとCコースの連絡路に沿っていると思われるが、途中からマーキングは旧作業道にそって連絡路から離れている。連絡路が使われなくなり踏み跡はほとんどなく、来訪者は道迷いを起こしやすい。実際に進行方向が分からなくなった。マーキングの目的不明。



(踏み跡もない林内へ誘導)



(異なる種類のマーキング)

**III群** ゴンバ沢の定期的な土砂流出で部分的に歩道が分からなくなっている。登山歩道を整備し、標準標識を設置するまでの期間、管理者名やコース名、行き先を明示した公共(協議会)の簡易マーキング設置が必要。



(目立つピンク色に加えて目立たない私的マーキング)



(標準補助標識に付けられた私的マーキング)

**IV群** 国有林富士山生物群集保護林内。国立公園特別地域内。優れた風致景観の御殿庭を横断する連絡路。標準標識も適切な間隔で設置されている。9月9日以降、大量の私的マーキングが設置された。派手なピンク色テープが風致景観を損なっている。2009年11月トレイルランレース「富嶽周回」時に大量の私的マーキングが短期間に付けられた状況に似ている。状況から今回もイベント目的の私的マーキングかもしれない。



(すぐれた風致景観の御殿庭、2種類の私的マーキング)



(標準標識の近くにも別の2種類の私的マーキング)

誰が設置したか(管理責任者)、どこへ誘導しているのか(行き先)、なんのために設置した(目的)が、来訪者に伝わらない私的なマーキングが多数設置されていた。管理者名や行き先のない「私的マーキング」は、2018年夏、須走口で起きた白のペイントによる「嘘の矢印騒動」と同様に、来訪者をどこに誘導しようとしているのかわからず、かえって道迷いを起こす危険がある。登山道や歩道は基本的に公共の利用を前提としている。私的マーキングを無秩序に設置することは、来訪者の安全や便宜、秩序ある良好な風致景観の維持及び形成を損なうので、最小限にするよう、関係行政に指導をお願いしたい。

## 詳細

- ・国有林富士山生物群集保護林を通過する須山口登山歩道では、林床植生が貧弱で見通しが効き、歩道外に幾筋もの踏み跡がある。本来の歩道が分かりにくくなっている。踏み跡にピンク色のビニールテープでマーキングがつけられている。これらのテープは行き先や管理者名がない私的なマーキングで、出会った来訪者は「ここはルートが分かりにくく、GPSを持参して利用している」と話していた。(7月、D/E、写13)
- ・保護林内に数多く付けられたビニールテープの私的マーキングは、7月末や先月9月9日の環境パトロール時には見られず、つい最近付けられた。設置者は不明で、誘導された踏み跡は植生を損傷している。(10月、D/E、写14)
- ・保護林内の歩道外の走りやすい場所に時間を競う走行のために、私的マーキングが付けられ、誘導されているならば、保護林内のいたるところで、さらに植生が踏み荒らされる恐れがある。また、他の来訪者も、その踏み跡を利用してしまい、結果的に本来の登山歩道が整備されないまま放置され、さらに登山歩道が荒廃する。(10月、D/E)
- ・宝永第三火口の標準標識「御殿庭上」の近くには、岩に直接「ごてんにわ」と白くペイントした地名表示が残置している。また、御殿庭中方面へ誘導するために、石を白くペイントしている。(11月、H、写15)
- ・10月の環境パトロール以降、保護林内の私的マーキングがさらに増加した。この区間は、トレイルランのタイムトライアルに使われ、ネット上でその情報が拡散されている。本来の登山歩道補修がすすめば、迂回路や私的マーキングは必要なくなる。(11、12月、D/E、写16)
- ・ビニールテープのマーキングは、旧C・D連絡路に沿い、途中から旧作業道へ向かって旧連絡路から離れている。旧連絡路には踏み跡はほとんどなく、来訪者は道迷いを起こしやすい。マーキングの目的は不明。(11、12月、D/E、写17)
- ・国有林富士山生物群集保護林内で、国立公園第一種特別地域内にある優れた風致景観の御殿庭を横断する連絡路では、標準標識が適切な間隔で設置されている。その歩道に9月9日以降、大量の私的マーキングを確認した。派手なピンク色テープが連なり風致景観を損なっている。2009年11月トレイルランレース「富嶽周回」時に大量の私的マーキングが短期間に付けられた状況に似ている。状況から今回もイベント目的の私的マーキングかもしれない。(11月、C・H連絡路、写18)
- ・幕岩上から四辻間に白くペイントされた杭が多数設置されている(7個確認)。一帯は霧がでると場所の確認が難しく、従来からあった保存会の須山口下山歩道の標柱(標識)と思われる。しかし、コース名や行き先、管理者名など記載がなく、アクセスできない程成長したカラマツ林の中に残されたものもある。また、四辻近くでは、岩に直接白く大きくペイントされている。遠くから見ると、衣類の落とし物のように見える。(11月、I、写19)
- ・御殿場新五合目・幕岩間の歩道には、他コースに比べて少ないとはいえ、ビニール紐やビニールテープがあり、樹木に直接大きく目立つ赤色でペイントされた、設置者や目的が不明な私的マーキングがみられた。(11月、I、写20)
- ・ピンクテープによるマーキングは須山口登山歩道を中心につけられており、落ち葉で踏み跡が見えない時期にはハイカーにとって心強い。しかし、本来の歩道を離れ林内の近道に誘導するものもあり好ましくない。設置者や目的が不明のため断定はできないが、本来国立公園内にこのような私的マーキングを勝手に設置すること自体が問題だ。(11月、D)
- ・いわゆる村山口登山道に「村山道」標識と「村山古道」表示、さらに幾種類もの私的マーキングのビニールテープが見られた。スカイライン登山区間との交差箇所では、同じ場所に、多数

の標識や私的マーキングが見られた。これらの標識類にはすべて標識設置者の表示はなかった。青、ピンク、紫等色々な色のビニールテープでマーキングされている。また、同じ木にいくつも巻いてあったり、きつく巻いて樹幹を締め付けていた。(12月、村山口、写 21)

- ・いわゆる村山口登山道では、初めて巡回した2005年当時、要所に表示されていた「村山口登山道案内図」は無くなっていた。(12月、村山口)
- ・二合目林道周辺～ナラ広場への歩道は、人工林内の侵食や樹木根の露出・損傷が進み、複線化し踏み跡が分かりづらい。そのためか私的マーキングが多数設置されている。解れやすいビニールテープをガイドロープとして使ったり、枯れ木に直接赤くペイントしている。(12月、A、写 22)
- ・樹木に巻いてあるビニール紐が、幹や枝に食い込んでいるものが多い。(12月、村山口)
- ・一部テープによるマーキングが設置されていた。この時期、落ち葉や積雪により 踏み跡が不明瞭で一部ルートに迷う個所もあったため、マーキングは役に立ったが、やはり、こういった方法によらないルート表示が望ましい。(12月、B)
- ・腰切塚南側の歩道では、入口からの距離数が簡易舗装道路の中央部と道路脇にマーキングされていた。協議会標準標識に、ひときわ目立つビニールテープのマーキングがあった。これは、保護林内の須山口登山歩道や歩道外の植生へ誘導するピンク色のテープと同じものに見える。(12月、K、写 23)
- ・浅黄塚東側の旧歩道周辺、比較的新しい赤い布の私的マーキングは、旧歩道にそうようにスカイライン方面へ誘導している。(12月、浅黄塚、写 24)
- ・使用されなくなった旧東臼塚遊歩道には標準的な標識や案内図は既になく、比較的短くあまり目立たないビニールテープの私的マーキングが付けられている。(12月、旧東臼塚遊歩道)



(写 13 登山歩道を外れ植生を損傷しながら直進誘導)



(写 14 登山道をショートカット誘導)



(写 15 岩に直接地名をペイント)



(写 16 目立つ長いビニールテープ・マーキング)



(写 17 踏み跡もない林内へ誘導)



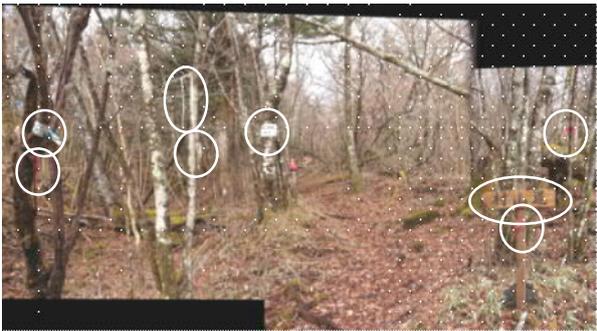
(写 18 派手な色彩のテープが風致景観を損なう)



(写 19 四辻近くの直接ペイントした石)



(写 20 樹木に直接ペイント)



(写 21 私的な標識と私的なマーキング群)



(写 22 解れたビニールテープ)



(写 23 水ヶ塚公園近く、目立つピンクのマーキング)



(写 24 踏み跡無く旧歩道か不明瞭な林内での道標)



左の「私的なマーキング」は、古いビニールテープが解れて、枝に絡んでいる。風が強い富士山では、カラマツの枝にビニールテープが絡みつき枝が折れることもある。解れたビニールテープが野鳥の巣作りに使われた例もある。道迷いの誘発や風致景観を損ねるだけでなく、生態系へ悪影響を及ぼす場合がある(写真は2019年8月撮影)。

## ①-1-4 新型コロナ感染症対策など表示(通行禁止、感染防止対策、鳥獣捕獲)

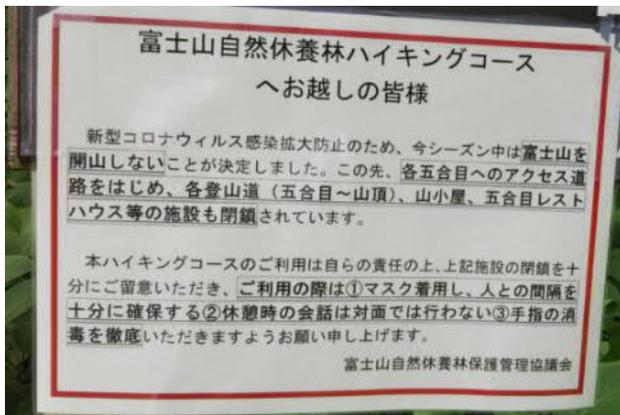
今年度は新型コロナ感染症対策で富士山の登山道が初めて閉鎖され、あわせて富士山自然休養林ハイキング・コースも立ち入り規制された。協議会のホームページや地元自治体のホームページ、さらに現場での利用(立ち入り規制)案内で、来訪者への周知に時間的な差や内容の差異が見られた。今年度の貴重な経験を踏まえ、来訪者へのタイムリーな情報発信が必要と考えられる。また、銃による鳥獣(ニホンジカ)捕獲作業中の立入禁止は、森林管理署のホームページと同様に協議会のホームページでも注意喚起をお願いしたい。

## 詳細

- ・御殿場市のホームページでは、6月9日付で通行止めについての記載があった。(6月15日)
- ・西臼塚駐車場には感染防止対策をして歩くようにという表示があった。(6月15日、L、写25)
- ・水ヶ塚上、須山御胎内入口に感染防止対策をして歩くようにという表示と須山下り一合五勺から先が通行禁止という表示があった。(6月15日、D/E、F、写26)
- ・協議会のホームページを確認したが、通行禁止についての情報はなかった。一方、御殿場市のホームページには市が管理する御殿庭下、幕岩までは通行可能と書いてあった。来訪者は現地へ行ってから通行できるコースを知ることになる。また、表示の仕方もハイキング・コースに入る人が必ず見るような場所にした方が良い。情報発信の仕方を工夫して欲しい。(6月28日)
- ・水ヶ塚上、須山御胎内入口の6月15日の表示は「須山下り一合五勺から先は通行禁止」だったが「御殿庭下、幕岩より先は通行禁止」の表示に代わっていた。しかし、入口と案内板が少し離れているので見ないで入る人もいるかもしれない。(6月28日、D/E、F、写27)
- ・水ヶ塚公園、水ヶ塚上、須山口登り1.5合に協議会による「立ち入り禁止区域の案内」や「来訪者への利用案内」が掲示されていた。(7月28日、水ヶ塚公園、D/E)
- ・幕岩上へ向かうI/F分岐点と幕岩の御殿場口へ向かうIコース入り口に通行止めのロープと「立ち入り禁止の表示」が設置されていた。(7月28日、I/F)
- ・水ヶ塚上の「来訪者への利用案内」は、雨に濡れて、ほとんど判読できなかった。(7月28日、D/E、写28)
- ・「来訪者への利用案内」に記されているマスクの着用は、屋外であることを考慮した表記に見直すよう要望したい。(8月8日、D)
- ・御殿庭下に通行禁止のテープが張られ、一ヶ所切られ、補修されていた。(8月22日、D/C)
- ・旧料金所ゲートやガラン沢分岐、高鉢駐車場、西臼塚に、協議会による「立ち入り禁止区域の案内」、「立ち入り禁止の表示」や「来訪者への利用案内」が掲示されていた。高鉢駐車場や西臼塚の歩道入口に「熊出没注意」、「熊”出没中 危険に付き立入禁止」が掲示されていた。また、Aコースの二合目林道交差点や西臼塚に「銃による鳥獣捕獲作業中。立入禁止のお知らせ」が表示されていた。来訪者に情報が伝わるよう、協議会ホームページと現地で、より分かりやすく案内したほうさらにが効果が高まると思う。(9月5日、写29)
- ・水ヶ塚公園、御殿庭下、須山口下山歩道幕岩分岐に協議会による「立ち入り禁止区域の案内」、「立ち入り禁止の表示」や「来訪者への利用案内」が掲示されていた。幕岩上に「熊出没注意」が表示されていたが、これは西臼塚などで見られる表示とは別様式だった。来訪者に情報が伝わるよう、協議会ホームページと現地で、より分かりやすく案内したほうさらにが効果が高まると思う。(9月9日)
- ・協議会のホームページでは、御殿庭下より上部のDコース、Hコースは立入禁止だが、御殿場市のホームページではHコースは利用可能となっていた。(11月9日)
- ・水ヶ塚上の案内板から立入禁止の表示は消えていたが、ガラン沢と御殿庭下の現地と水ヶ塚公

園のトイレには立入禁止の表示があった。(11月9日、C、D)

- ・前日の13日、協議会のホームページで、一部利用可能なBと立入禁止のA、J、Mコース、携帯トイレの使用などが案内されたが、現地の須山御胎内入り口の協議会案内図には、同様な情報は掲示されていない。(11月14日、F、写30)
- ・休養林歩道への立入禁止は解除され、各入口の掲示は撤去されていたが、御殿庭下の立入禁止表示は残ったままであったため、見えない位置に固縛を行った。(11月14日、D/C)
- ・富士山自然休養林のBコース、Aコースは立入禁止になっている。しかし、Bコースの高鉢駐車場入口の立入禁止表示は取り除かれていた。また、付近の協議会の休養林歩道案内図に貼られていた立入禁止の案内はなくなっていた。一方、Aコースへの入口にある立入禁止表示は9月と同様にそのままの表示されていた。(12月5日、B)
- ・旧料金所近くの案内板では、いまだに立入禁止の表示が残っている。(12月19日、C)
- ・水ヶ塚上の案内板に、自然休養林内の立入り禁止コースの表示はなかった。同協議会のホームページには、立入禁止のA、B、J、Mコースの全面利用不可や一部利用不可、さらにKコースの工事中利用不可が明示されている。現場の案内図でも明示してほしい。(12月23日、D/E)



(写25 初めての感染防止拡大対策の案内)



(写26 須山下り一合五勺から先立入禁止)



(写27 立入り可能コース)



(写28 濡れて判読が難しい利用案内)



(写29 森林管理署の「銃による鳥獣捕獲立入禁止」)

**ハイキングコースのご利用について**

ハイキングコースのご利用につきましては、五合目へのアクセス道路の閉鎖継続や、Aコース付近にてクマの出没が確認されていることから、次のとおりのご案内といたします。

<b>一部利用可</b> <small>(カッコ内は利用可能区間)</small>	Bコース(ガラン沢～御殿庭下)
<b>全面利用不可</b>	Aコース、Jコース、Mコース

※Kコースは展望台改修工事を行っています。工事中は利用できません。

各登山道五合目施設は閉鎖されており、コース内にはトイレがありません。あらかじめ済ませるか携帯トイレを持参されるなど、十分にご準備された上でご利用いただきますようお願いいたします。

(写30 現場にも必要な協議会ホームページ利用案内)

## ①-1-5 歩道関連設備の老朽化や荒廃

## 詳細

- ・歩道に埋められた水道管の露出が進んでいる。(6月、須山口)
- ・鉄塔付近の登山歩道は丸太階段が崩れ歩きにくかった。鉄塔より先は階段の腐食荒廃により危険を感じた。(6月、須山口、写31)
- ・幕岩へ下る急坂は、昨年報告したとおり木段等が崩落したままとなっており、砂交じりの斜面に足をとられ転倒する危険がある。歩きにくい状況が続いているため、近くに迂回路(複線化)が形成されるのは時間の問題と思われる。多くのハイカーにより踏み固められ、歩きにくさは改善されたものの早急な対策を要望したい。(7、8、10月、F/I、写32)
- ・南山休憩所のベンチは壊れていて座るとぐらぐらして危険。ここは、雨宿りしたり休んで富士山の自然に親しむのに適した場所にある。対策の検討をお願いしたい。(8月、E、写33)
- ・腰切塚を周回するルートは、木段が腐食・脱落するなど荒廃が進み、歩道上に倒木がある箇所には迂回路が生じている。歩道の整備を要望したい。(8、9月、K、写34)
- ・雨が多い富士山南麓では侵食や木材の腐食が進みやすい。歩道には、水ミチ化を防ぐ水切りが必須。丸太階段の改修では、立杭の打ち直しで、土壌を剪断し歩道の強度を弱めかねない。富士山南麓特有の自然環境に対応した歩道施設の設置検討が要請される。(9月、A、B、C、K)
- ・腰切塚展望台の手すりに近づけないよう、ロープが張られていた。開口部が広がっており、小さな子どもには落下の恐れがあり、ロープが付けられたのかもしれない。注意喚起の案内板をつけてほしい。(9月、K)
- ・腰切塚の歩道では二重の丸太が使用され、侵食が進みハードル化した箇所が多い。北側の歩道では、上の丸太を外してハードル化を防止している。(9月、K)
- ・腰切塚の歩道では丸太と立杭を締め付けている長いボルトが、山側に突き出ている箇所がある。来訪者の安全を損ねかねない。(9月、K、写35)
- ・樹木に2種類の名札が付けられている。それらは年月で破損しているものもある。「頭上注意」と「通行注意」の協議会注意喚起表示が経年変化で読みにくくなっている。(11月、I)
- ・木製ベンチの腐食が進んでおり、中には傾いた状態のものがあつた。(11、12月、I)
- ・高鉢駐車場近く、横切る沢は侵食が進んで橋が崩落して、迂回路が設けられている。このステップも侵食が進んで非常に歩きづらい。(12月、B、写36)
- ・ビニール製のう袋が破損しているものがあり、ビニールゴミになっていた。(12月、村山口)



(写31 腐食した丸太階段が流出)



(写32 激しい侵食による丸太階段の損傷)



(写 33 老朽化し丸太が不安定で危険)



(写 34 木段の侵食脱落で歩きづらく複雑化)



(写 35 危険なボルトの突出:白丸内)



(写 36 侵食が進み歩きづらい土留め階段)



(太い丸太は腐食、丸太材の下は削れている)



(同様な丸太階段、立杭が年々打ち込まれている)

富士山南麓の環境パトロールや植生保全環境調査中に、太い横木が腐食した丸太階段に出会う時がある。こうした丸太材が腐食した階段は不安定で、急に体重をかけると崩れてしまうことがある。通過に際して注意が必要だ。

これらの丸太材は周辺の樹木を伐採し、そのまま丸太に使っているように思えた。年間降雨量 3,000 ミリを超え、菌類が付着しやすい南麓の樹林帯では、数年をまたずに丸太材は腐食してしまう。

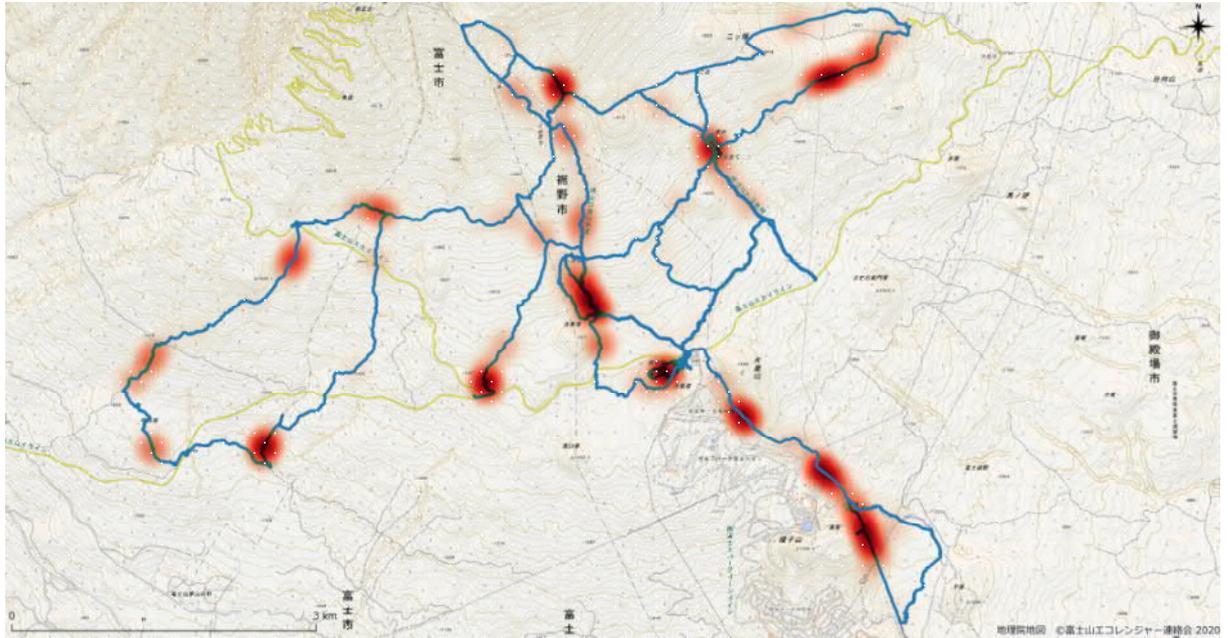
また、横木の下の方面は、雨水の侵食や冬の凍結融解ですぐに削り取られてしまう。

さらに補修のため立杭を打ち直すと、立杭が土壌を剪断し、歩道の支持強度を弱めてしまい崩れやすくなる恐れがある。

富士山南麓の樹林帯に数多く見られる側火山の周辺は、地形は急で、地質は火山堆積物が多く、降雨量など気象条件が厳しい。こうした富士山南麓の樹林帯では、歩道やその周辺環境の整備には予想以上の労力を必要とし、一筋縄では行かない。

## ①-2 歩道・登山道

「歩道・登山道の施設」と並んで「歩道・登山道」自体の報告も多い。年間雨量 3,000mm 以上という多雨の富士山南麓では、崩れやすい火山堆積物や傾斜の影響、さらに二ホンジカ急増による影響もあり、年々自然侵食が加速している。さらに歩道・登山道には人為による侵食が加っている。今年度の環境パトロールで確認した歩道・登山道の荒廃箇所は下図の通り。



(図 歩道・登山道の荒廃ヒートマップ。赤色の濃淡の濃い箇所ほど歩道荒廃の報告が多い)

歩道への負荷が大きい来訪者の利用形態は、数百名を超える連続踏圧の団体ツアー利用に加えて、衝撃が歩行の数倍もあるランニングや「富士下山」と呼ばれる衝撃が大きな下りのみのツアーへと多様化し、歩道への負荷が増大している。

私達は環境パトロールや過去9年に渡るウルトラトレイル・マウントフジ植生保全環境調査を通じて、富士山南麓の樹林帯では歩道の支持力が概ね小さいことを知った。その荒廃し侵食しやすい歩道では、走行や下りの連続衝撃の増加を想定した歩道管理は行われていない。

## ①-2-1 歩道の荒廃(侵食、倒木など歩道・登山道への影響)

## 詳細

- ・ 弁当場から大調整池への登山歩道をふさぐ倒木が2ヶ所あった。(6月、須山口)
- ・ 東電送電線真下の斜面の樹木が送電線保全のために伐採されたことで登山道が侵食・崩落していた。もう少し崩落を起こしにくい方法を配慮してほしい。登ってきてから迂回用ロープに気づいた。(6月、須山口、写37)
- ・ 大調整池ダム下、以前須山口登山歩道保存会によって土のうを積んで新設された迂回路が跡形もなく流されていた。非常に歩きづらい。(6月、須山口)
- ・ フジバラ平下の須山登山道が分岐する部分は侵食崩壊がひどくなっていた。(6月、須山口)
- ・ 黒塚東斜面は土が流されて木の根が露出している場所が何カ所もある。(6月、須山口、写38)
- ・ 6月にも歩いたが、歩道の荒れ方に驚いた。大雨により、川のように流れた跡が随所にあった。(7月、須山口)
- ・ 須山口登り 1.5 合から下り 1.5 合への水平歩道では、沢を渡る歩道三箇所まで侵食が進んだ。(7月、E、写39)

- ・浅黄塚北東部、保護林内の須山口登山歩道では、大雨時に歩道へ雨水が流れ、ミズ道化し、段差が拡大した。また、2013年の大規模トレイルランレース(UTMF)で大勢のランナーが通過した歩道脇の法面が崩れていた。(7月、D/E、写40)
- ・幕岩・御胎内間の須山口下山歩道では、歩道の侵食が進み樹木の根が露出し通行の妨げとなっている。(7月、F、写41)
- ・須山口登山歩道で倒木を確認した。(8月、D)
- ・南山林道では侵食、砂礫堆積、大きな落枝と荒廃が進んでいる。(8、9月、南山林道)
- ・須山口登山歩道では侵食が激しい箇所では深さ1m以上となっている。(8月、D、写42)
- ・荒廃した登山道は水切りがされておらず増々侵食されていく。山頂への登山道に加えて自然休養林の歩道の補修工事も併せて行って欲しい。(8月、D)
- ・ガラン沢、日沢、不動沢の横断箇所では大雨による歩道の崩落が生じている。特に日沢では倒木も多い。歩道崩落箇所については、今後の大雨による増水等にも耐えられるような抜本的な対策工事を要望したい。(9、12月、B、写43)
- ・富士山は雨が多く、ハイキング・コースは増々侵食が激しく、訪れる度に心を痛めてしまう。(9月、A、B、C-2、D、L)
- ・侵食による荒廃が目立った箇所は、旧料金所ゲート近くのハイキング・コース入口から約700mの区間。特に旧料金所ゲート近くのCハイキング・コース入口から約20mの歩道は、水ミチ化が進み「ガリー侵食」となり、約2mの段差(1mの段差と奥側の深さ約1mの侵食)となっている。通常歩行は困難な状況。迂回路も形成されていることから、抜本的な補修を要望したい。(8、9、12月、C-2、写44)
- ・崩れた場所や樹木の根の露出が目立った、樹木の根の露出により、つまづき転倒の恐れがある。(9月、C-2)
- ・登山道は大雨の影響で侵食が進んでいる箇所があり、穴状になっている箇所がある。沢を横切るところや斜面が急なところの崩落が目立ち、歩行が困難な場所もあった。侵食箇所の整備が望まれる。(9月、A、写45)
- ・宝永第三火口下の急傾斜箇所(標高2,070m付近)では若干侵食がみられる。御殿庭入口の分岐箇所付近は侵食が進んでいる。(9月、H、写46)
- ・幕岩上流部の沢横断箇所では歩道の侵食がみられる。(9月、三辻・幕岩上連絡道)
- ・沢を横切る場所2カ所で崩落が進んでいる場所があった。歩行中にバランスを崩すと危ない状況だった。(9、12月、A、写47)
- ・二合目林道から西臼塚ナラ広場への斜面では、侵食と通行により樹木根が露出し損傷している。(9、12月、A、写48)
- ・三辻脇の沢横断部は、現状支障はないが大雨や雪代により崩落する恐れがある。以前にも路面が崩落し通行不能となった経緯があるため、抜本的な対策を要望したい。(9月、H、写49)
- ・弁当場から沢沿いに侵食の激しい場所が2カ所あった。弁当場から上は、毎回のパトロールで確認する場所で侵食が進んでいた。(11月、須山口、写50)
- ・大淵林道から八幡堂への歩道に侵食による荒廃がみられた。10年前にはこうした侵食荒廃は見られなかった。現在、土のうで作られた水止めや水切りがあるが、侵食は進んでいる。(12月、村山口)
- ・倒木が歩道をふさいでいる箇所があった。(12月、C-2)
- ・基本的には歩道は明瞭だが、倒木があり歩きにくい場所もある。特に分岐は分かりにくい。(12、2月、旧東臼塚遊歩道)



(写 37 送電線下の侵食が激しい伐採地の歩道)



(写 38 土が流されて木の根が露出)



(写 39 涸れ沢を横切る水平歩道部分の侵食)



(写 40 歩道へ雨水が流れミズ道化し、段差が拡大)



(写 41 世界文化遺産の登山道の侵食、樹木根の露出)



(写 42 登山歩道の侵食が激しく脇に明瞭な踏み跡)



(写 43 沢岸が侵食し大きな段差。倒木。白線の迂回路があるが倒木で分からない)



(写 44 ガリー状に激しく侵食し通行できない歩道)



(写 45 穴状に侵食し歩道を通行できない)



(写 46 御殿庭入口の分岐箇所付近は侵食)



(写 47 路面が崩落し易く対策が必要な箇所)



(写 48 侵食と通行により樹木根が露出し損傷)



(写 49 路面が崩落し易く対策が必要な箇所)



(写 50 雨水を右側にある川に流さず、登山歩道上を流れて大きくエグれた箇所)



(西臼塚の富士山ふれあいの森の歩道、この後閉鎖)

西臼塚にある富士山ふれあいの森は、家族連れや子どもたちの自然観察会で、多くの来訪者に利用されている。しかし、一部の歩道は侵食で深くエグれ、来訪者の通行に支障が出るようになった。来訪者の安全のため、歩道管理者は一部の歩道を閉鎖せざるを得なくなった。

水切りの設置や歩道の侵食が小規模なうちに適切な補修が行われないと、同様な環境にある富士山南麓の樹林帯を巡る歩道は閉鎖せざるを得なくなる。

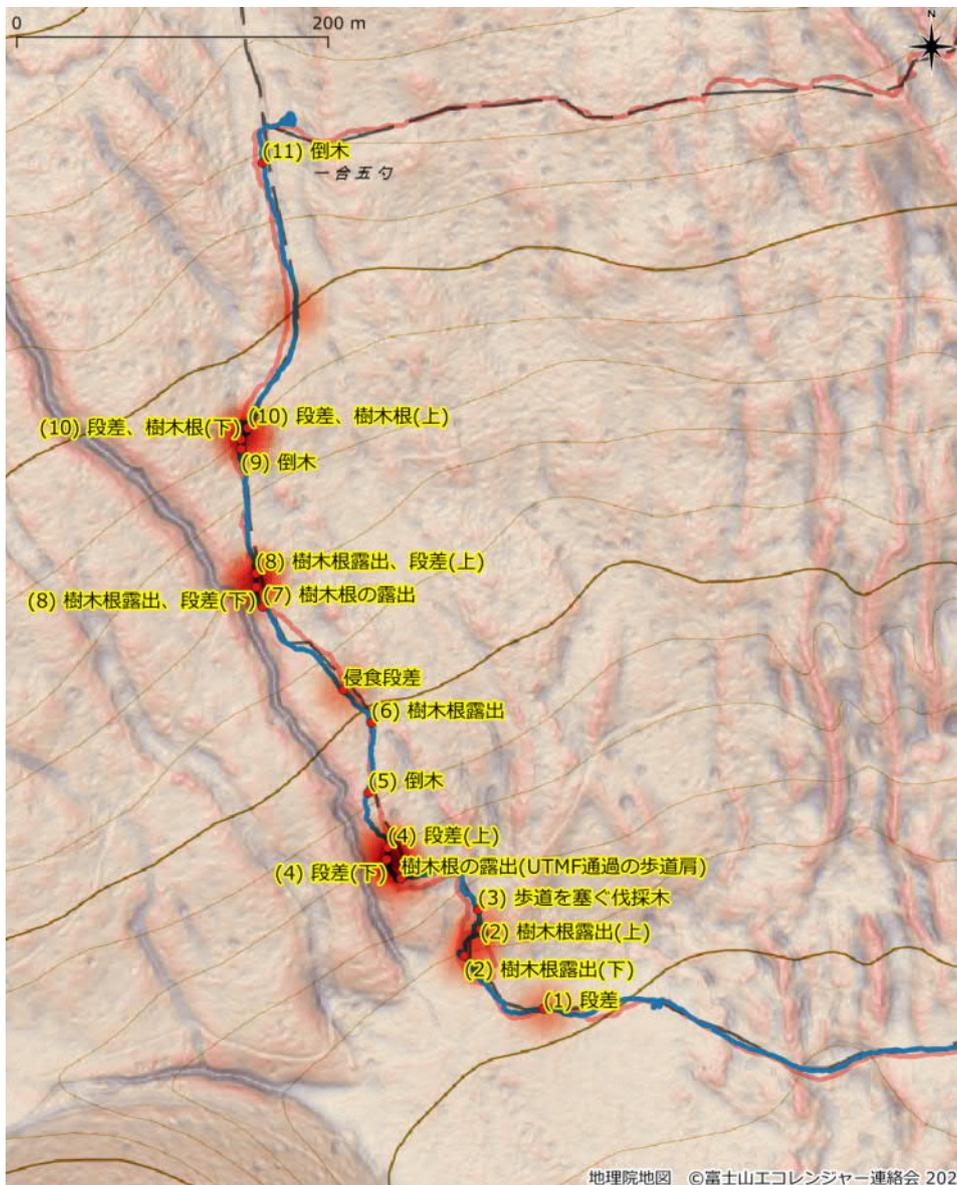
①-2-2 通過困難箇所の回避などによる歩道の拡幅・複線化、周辺植生の損傷

歩道が侵食や倒木などで通過困難になるとそこを回避するため、歩道が拡幅し、迂回によって複線化することで周辺植生が損傷する。歩道の侵食が進むと樹木の根が露出し、来訪者が踏みつけることにより根が損傷しさらに侵食がすすむ。こうした箇所が富士山自然休養林ハイキング・コースの随所にみられる。

報告が多く影響が出ている区間

- (1) 国有林富士山生物群集保護林内の須山口登山歩道の浅黄塚分岐から 1.5 合目区間(注 7)
- (2) 世界文化遺産の須山口下山歩道の幕岩分岐から 1.5 合目区間(注 8)
- (3) 国立公園第一種特別地域内、国有林富士山生物群集保護林内の須山口登山歩道 2.5 合目(御殿庭下)から 3 合目(御殿庭中)区間(注 9)

(注 7) 国有林富士山生物群集保護林内の須山口登山歩道の浅黄塚分岐から 1.5 合目区間



(図 須山口登山歩道 1.5 合目までの通過困難箇所。数字は以下の写真に対応。青色の線は従来の登山歩道。赤色の線は複線化した踏み跡。赤丸は通過困難場所)



(1) 段差



(1)段差 2020年7月



(2) 樹木根の露出(下から見る) 左側が複線化



(2) 樹木根露出(上から) 侵食で大きな根が露出



(3) 歩道を塞ぐ伐採木



樹木根露出(右側法面の肩は大規模レース通過後崩落)



(4) 段差(下から)



(4) 段差(下から) 2019年8月



(4) 段差(上から)



(5) 歩道を塞ぐ倒木



(6) 樹木根の露出



侵食段差



(7) 樹木根の露出



(8) 樹木の根露出、段差(下から)



(8) 樹木根の露出、段差(上から)



(9) 歩道に掛かる倒木



(10) 大きな段差、樹木根の露出(下から)



(10) 大きな段差、樹木の露出(上から)



(10) 段差、樹木根の露出(下から) 2013年4月



(11) 歩道に掛かる倒木

これらの中で、「(2) 樹木根の露出」、「(8) 樹木根の露出、段差」、「(10) 大きな段差、樹木根の露出」は段差が大きく侵食が深い。雨水の流下や溶岩流の境界が影響しているのだろう。修復作業に労力が必要だ。ただ、周辺に大小の岩石があるので、修復に利用できる。また、この歩道では、毎年、宝永第三火口からゴンバ沢経由で砂礫の自然流下が起きており、あたかも侵食段差を誰かが補修したように歩道表層を平滑化している。もし、この自然流下する砂礫を、段差箇所へ誘導できれば、自然による部分的な修復も可能かもしれない。



(自然林の入口近くまで到達する砂礫)



(1.5 合目近く。自然流下した砂礫で平滑化)

### 同区間の大量私的マーキング (①-1-3 私的マーキング参照)

富士山自然休養林を通過する須山口登山歩道(D/E ハイキング・コース)には、他の自然林ハイキング・コースと同様に、協議会によって標準標識が設置されている。さらに須山口登山歩道保存会の標識も設置されている。しかしながら、浅黄塚への分岐から須山口 1.5 合目までの比較的長い 600m の区間には、行き先を表示した標準標識は見当たらないようだ。



(須山口 1.5 合目の分岐を示す標準標識と保存会標識)



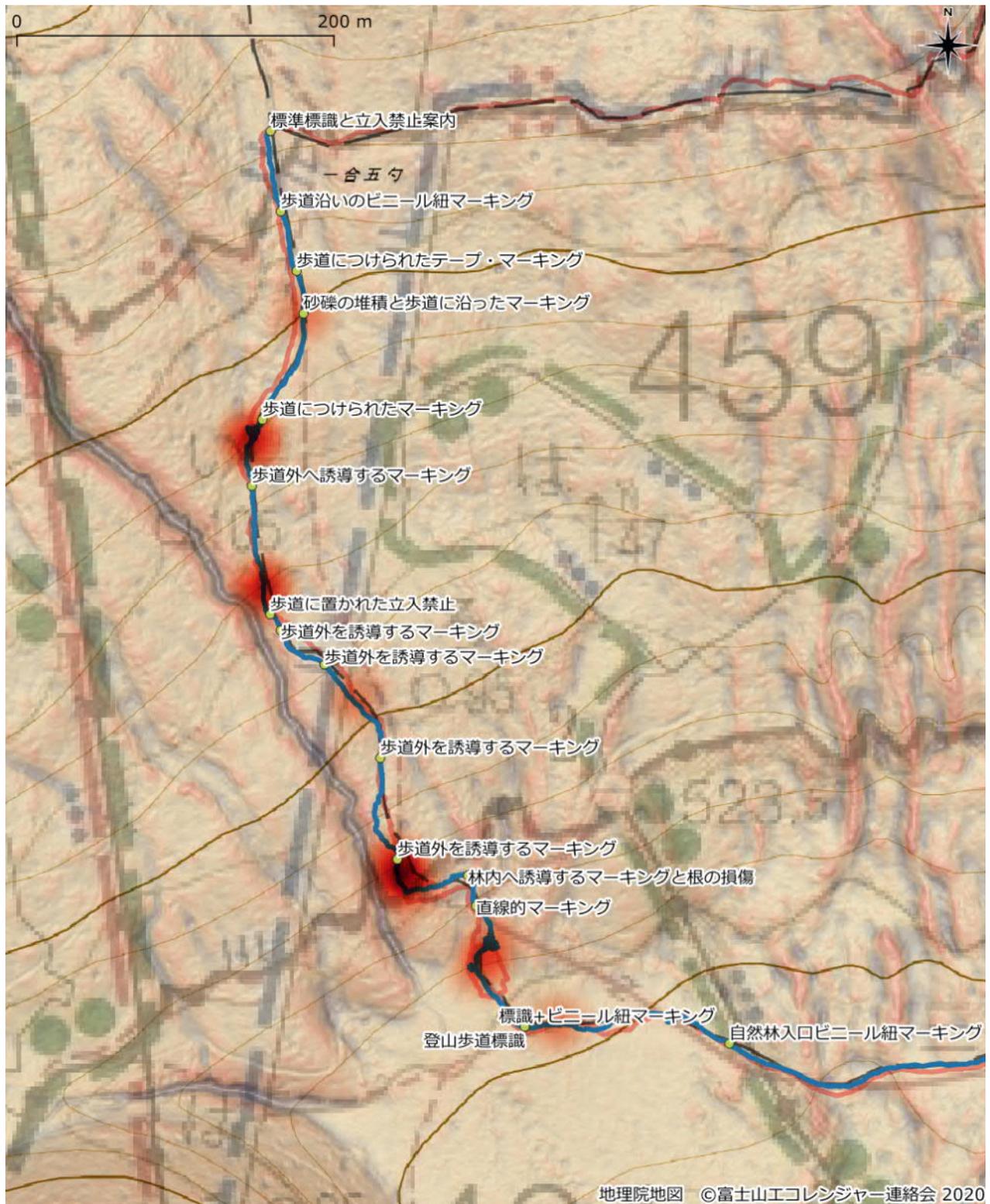
(浅黄塚分岐の保存会標識)

ところがこの区間には、標準標識や保存会標識とは異なる、設置者、管理者、行き先などが表示されないビニールテープのマーキングが多数見られる。歩道周辺は二ホンジカの食害などにより貧弱となった林床のため、見通しが効く。私的なマーキングは、歩道外へ踏み出し林内を直線的に通る踏み跡へ誘導している。これらビニールテープのマーキングの多くは、7月末の環境パトロールや先月9月9日の環境パトロール時には見られず、10月に設置された。設置者は不明だ。

ソーシャル・ネットワークのStravaによれば、この区間は、トレイル・ランナーによる、タイムトライアル・レースが行われている(51頁参照)。仮に時間を競う走行のために、歩道外の走りやすい保護林内に私的マーキングが設置され、通行誘導が行われているならば、林内のいたるところで植生が踏み荒らされる恐れがある。また、他の来訪者も、その踏み跡を利用してしまい、結果的に本来の登山歩道が整備されないまま放置される。

この区間は、国有林「富士山生物群集保護林」に指定されている。この保護林内の登山歩道については、過去何回もエコレンジャー環境パトロールから、登山歩道に通行困難な箇所があり、歩道外に幾筋もの踏み跡ができ、複線化し、植生損傷が見られ、来訪者の道迷いも報告され、本来の歩道や周辺植生の保全対策が要請されている。

来訪者の道迷いを防ぎ、安全な通行確保のために、「富士山生物群集保護林」の設置目的に則した保全利用になるように、森林管理署や富士山自然休養林保護管理協議会は、本来の歩道を修復し、私的マーキング設置者を指導し、標準標識の設置をお願いしたい。



(図 標準標識や歩道周辺に設置されたビニールテープのマーキング箇所。青色の線は従来の須山口登山歩道に沿って歩いた GPS トラック。赤色の線は歩道外へ踏み込み複雑化した踏み跡に沿った GPS トラック。黄丸は標識やビニールテープなどの私的マーキングの設置場所。赤の濃淡は歩道の荒廃箇所。背景は国有林計画図、静岡県 CS 立体図、地理院地図)

以下の写真で、白丸はビニールテープのマーキング。青色の線は本来の登山歩道。赤点線はビニールマーキングで誘導される複線化の踏み跡を示す。



(自然林入口ビニールマーキング)



(浅黄塚分岐の標準標識にビニールマーキング追加)



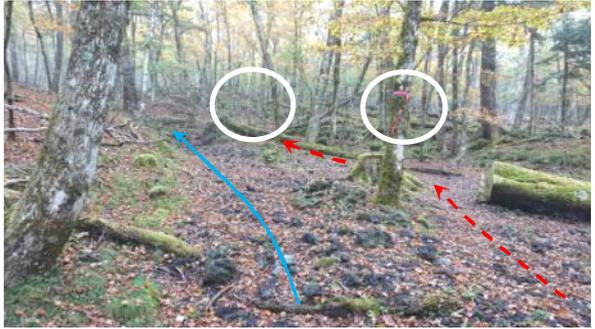
(直線的にマーキング)



(林内へ誘導するマーキングと樹木根の損傷)



(歩道外を誘導するマーキング)



(歩道外を誘導するマーキング)



(歩道外を誘導するマーキング)



(歩道外を誘導するマーキング)



(歩道に置かれた立入禁止)



(歩道外へ誘導するマーキング)

(注8) 世界文化遺産の須山口下山歩道の幕岩分岐から1.5合目区間

世界文化遺産に登録された須山口下山歩道は、小さな尾根を緩やかに蛇行しながら登っている。協議会の標準補助標識も設置されている。その歩道の東側に、直線的な踏み跡が2013年の大規模トレイルラン・レース時に付けられ、以降、その踏み跡を来訪者が利用し複線化(迂回路)した。この迂回路の東側、砂沢右岸は崩壊が年々拡大し、最短距離で約20数mまで迫っている。また、上部でも、直線的な踏み跡が加わり、本来の歩道の拡幅、複線化が生じている。本来の歩道の整備、利用が要請される。



(砂沢右岸の崩壊を対岸から見る)

(図 世界文化遺産の須山口下山歩道の複線化)



(世界遺産の登山道、拡幅、複線化、植生損傷進む)



(本来の狭い歩道が拡幅、複線化、樹木根の損傷)



(本来の歩道は右側へ回るが迂回路は直進で下る)



(左側が本来の登山道、大規模レース後、直線的複線化)

**(注9) 国立公園第一種特別地域内、国有林富士山生物群集保護林内の須山口登山歩道2.5合目(御殿庭下)から3合目(御殿庭中)区間**

Cコースの御殿庭下から宝永第二火口縁までの区間に設定している定点観測地点(標高2,080m)では、2007年頃から歩道が雨水によって洗掘され、歩行困難となり(①)、カイドロープで西側を迂回(②)。迂回路付近は樹木など植生が損傷した(③)。あらたな迂回路自体もミズ道となり、侵食が進み植生損傷が拡大した(④)。

定点観測地点から標高2,130mにかけても、さらに広範囲に侵食、洗掘、迂回路設置、迂回路の侵食、植生損傷が繰り返されている。2007年頃から降雨後の洗掘が目立ちはじめ(⑥⑦)、2011年5月には洗掘がガリー化し歩行困難となった(⑧)。同年7月、500人規模のガイドレス・ツアー(下記参照)が行われ、大規模な連続踏圧の影響もあり、9月には迂回路が設定されていた(⑨)。

洗掘や侵食が確認された歩道では、ミズ切りを設置するなど早急な対応が必要であり、遅れると短期間で侵食荒廃が拡大する。今後、この付近は、さらなる迂回路の洗掘と歩道の侵食拡大が予想される。根本的な対応をお願いしたい。



(①) 定点観測地点 歩道の左側が洗掘、2011年5月



(②) 洗掘拡大で左側を迂回するカイドロープ、同9月



(③) 左側の迂回路により植生損傷、2013年8月



(④) 迂回側の植生損傷拡大、2019年8月



(⑤) 現状



(⑥) 標高2,100m付近、2007年8月、雨水の洗掘



(⑦2007年11月、台風シーズン後洗掘が深くなる)



(⑧2011年5月、洗掘が拡大しガリー状侵食となる)



(⑨2011年9月、ガリーを避け植生部分に迂回路)



(⑩2019年8月、歩道と迂回路、迂回路は植生損傷)

2011年7月9日に行われた500人規模のガイドレス・ツアー「小田急のんびりハイク&ウォーク」

7/9 土
難易度 ★★★
申し込み 必要
第286回 富士急湘南バス合同

富士山富士宮五合目・宝永火口・水ヶ塚公園コース

募集人数	定員500名
集合場所・時間	新松田駅 8:30~9:30
ゴール	水ヶ塚公園 15:00まで
解散	新松田駅 16:30頃
交通費	おとな 3,000円 こども 1,500円 (往復バス代)

コース詳細

新松田駅=[バス]=富士山富士宮五合目  
園(ゴール)=[バス]=新松田駅(解散)  
◆約7km/徒歩約90分



富士宝永火口

申し込み方法

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-89846>

詳細

- ・国有林富士山生物群集保護林内の浅黄塚から須山口登山歩道 1.5 合目区間では、侵食箇所が2013年の大規模トレイルランレース(UTMF)でさらに侵食が加速した。歩道に侵食による通過困難箇所が11箇所ある。補修が必要。来訪者の道迷いを防ぎ、安全な通行確保のためと、「富士山生物群集保護林」の設置目的に則した保全利用になるように、森林管理署や富士山自然休養林保護管理協議会は、本来の歩道を修復し、私的マーキング設置者を指導し、標準標識の設置をお願いしたい。(7、9、10、11、12月、D/E、注7)
- ・須山口下山歩道 1.5 合目から、幕岩への下り分岐間の『世界文化遺産』登録の須山口登山道で歩道の拡幅、複線化が見られる。本来の歩道の東側に、直線的な迂回路が2013年の大規模トレイルラン・レース(UTMF)時に付けられ、以降、来訪者が利用し植生が損傷している。この迂回路の約30mの砂沢右岸は崩壊が年々拡大している。本来の歩道の整備、利用が要請され

- る。(7、9、11月、F、注8)
- ・御胎内から一合五勺間の須山口下山歩道、幕岩へ下りる道、須山口登山歩道一合五勺から水ヶ塚駐車場までの道は崩れたり複線化が進み、植生も損傷していた。(8月、D/E、F、写51)
  - ・谷状にえぐれて歩きにくい箇所を迂回する新たな踏み跡が数か所みられるなど、数年前と比べ全体としていたるところで複線化が進んでいる。(8月、D)
  - ・須山口登山歩道1合5勺から上の登山道は雨水による侵食が激しい箇所があり、場所によっては深く挟られて歩くことができない。直ぐ横の「土手」の部分が新たな登山道と化しているが両側にあるので、複線化が起きている。道幅も広く植生を損傷している。(8月、D、写52)
  - ・急な大雨で雨水が窪んだ登山道に流れ込み、その流れが速く川のようになり、仕方なく登山道を避けて歩くことになった。自らが登山道の拡幅や複線化、植生損傷を加速する形となってしまった。(8月、C-2、写53)
  - ・水ヶ塚から上部の須山口登山歩道は2年前にパトロールしたが、歩道の侵食が進み、それに伴う複線化が更に進行し植生を損傷している(8月、D)
  - ・腰切塚山頂への木段路は木段を避けて歩く歩道外の踏み跡が随所にみられる。(8月、K)
  - ・ガラン沢分岐南東側の溶岩帯で、従来の歩道が水ミチ化により、岩がゴロゴロとして歩きづらくなり、溶岩の植生部分に踏み跡ができ、溶岩流上のコケ類など貴重な植生を損傷している。(9月、C-2、写54)
  - ・西臼塚遊歩道の一部には激しい侵食で歩きづらく複線化している部分がある。子供たちの観察会に利用されるので、自然に配慮しながら安全に歩ける対策が必要。(9月、L、写55、56)
  - ・富士山自然休養林の登山道は最近の激しい気象により荒れ方がひどくなっている。登山道が歩行困難になると複線化が進み植生を損傷する。自然保護と来訪者の安全を考えた対策が必要。(9月、A、B、C-2、L)
  - ・須山口登山歩道2合目から御殿庭下では、侵食によって歩道が水ミチ化し、石ころが出て歩きづらく、歩道外の植生部に踏み込む形の複線化がめだつ。場所によっては直線的(ショートカット的)な複線化も多く植生が損傷している。(9月、D、写57)
  - ・御殿庭入口から、三ツ辻・幕岩上までの区間(立入禁止区間)では、歩道の複線化が見られた。(9月、H、三ツ辻・幕岩上連絡路、写58)
  - ・御殿庭下から宝永第二火口縁までの区間に設定している定点観測地点(標高2,080m)では、2007年頃から歩道が雨水によって洗掘され、歩行困難となり①、カイドロープで西側を迂回②。迂回付近は樹木など植生が損傷し③、迂回路の侵食がはじまった④。定点観測地点から標高2,130mにかけて、さらに広範囲に侵食、洗掘、迂回路設置、迂回路の侵食が繰り返されている。2007年頃から降雨後の洗掘が目立ちはじめ⑥⑦、2011年5月には洗掘がガリー化し歩行困難となった⑧。同年7月、500人規模のガイドレス・ツアーが行われ、連続踏圧の影響があり、9月には迂回路が設定されていた⑨。今後、さらなる迂回路の洗掘と旧歩道の侵食拡大が予想される。根本的な対応をお願いしたい。(11月、C、注9)
  - ・宝永第三火口から御殿庭入口までの歩道は、毎年報告しているように、歩道の拡幅、複線化、樹木根の露出・損傷が見られた。(11月、H、写59、60)
  - ・御殿場口五合目から樹林帯に入った斜面で、侵食による段差や樹木根の露出・損傷や複線化が見られた。(11月、I、写61、62)
  - ・涸れ沢を渡る歩道に流出した石が堆積していた。周辺にはガイドロープがあるが、倒木などで外れて植生の中を迂回している箇所があった。御殿庭下までの区間は、他コースに比べて侵食など荒廃は少ないが、複線化した部分があった。(11月、C-2、写63、64)



(写 51 大きく崩れ大雨が心配)



(写 52 土手が新たな登山道と化し両側にある)



(写 53 急な大雨で雨水が窪んだ登山道に流入)



(写 54 右側の歩道が歩きづらくコケ類の中へ踏み跡)



(写 55 激しい侵食で丸太が流出し歩きづらい)



(写 56 歩きづらい歩道为避免複線化、植生損傷)



(写 57 石が多い右側の歩道为避免、植生部を損傷)



(写 58 カラマツ林の林床に多く見られた歩道複線化)



(写 59 御殿庭入り口近くの複線化)



(写 60 歩道の拡幅、複線化、樹木根の露出・損傷)



(写 61 侵食による樹木根の露出、複線化)



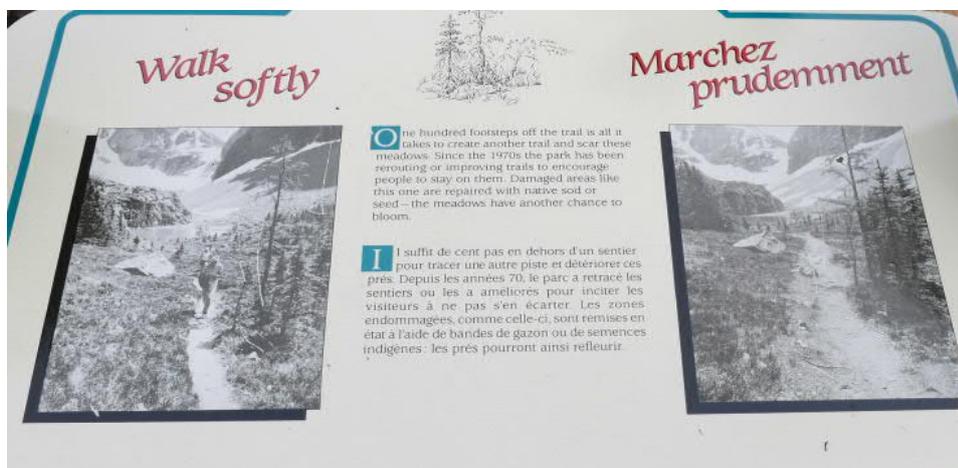
(写 62 侵食による根の露出、損傷)



(写 63 歩道を塞ぐ倒木未処理で植生に踏み跡)



(写 64 ロープが垂れ下がり歩道を横断)



世界遺産カナディアンロッキーでは、1970年代、多くの来訪者でトレイルが広がり、貴重な植生が損傷した(右の写真)。時間と労力と知恵を使った修復で植生が回復した(左の写真)。(ヨーホー国立公園、レイクオハラ)

## ①-2-3 その他、歩道の不明瞭など

## 詳細

- ・御殿庭下からガラン沢までの間は比較的歩きやすい道だった。(8月、C-2)
- ・御殿庭下から幕岩のコースは禁止されているが、歩道やその周辺自然環境の保全活動(歩道などの整備)を前提として、これからの季節許可しても良いのでは。(8月、CH連絡路)
- ・いわゆる村山口登山道は、自然休養林ハイキング・コースではないが、踏み跡もしっかりして歩いて歩きやすいルートとなっている。(9、12月、村山口)
- ・中宮八幡堂から先は道が消失し分かりにくい。八幡堂手前に分岐があった模様。地図を頼りに沢を渡り、本来の登山道を発見。(9月、村山口)
- ・林内のルートは落ち葉が絨毯のように覆われ、踏み跡が不明瞭の箇所もあった。(10月、I)
- ・宝永第三火口内の歩道が毎年の宝永山方面からの砂礫流出や利用の影響などで狭く不明瞭になっていた。(11月、H、写65, 66)
- ・ガラン沢～御殿庭下間は落ち葉により 踏み跡が覆い隠され、ルートがわかりにくい箇所もみられた。(11月、C-2)
- ・須山口登山歩道一合五勺とガラン沢下を結ぶ旧連絡路は、山岳地図に「ルート不明瞭」として明記されている通り、ところどころテープがつけられているもの見落としやすく、かつ踏み跡もない部分がほとんどで、道迷いの恐れが高い。特にルートの東半分、Dコース寄りの部分は、本来のコースでないところにテープがつけられ誘導されている。(11月C・D連絡路)
- ・浅黄塚東側の旧歩道はスズタケが消失し、踏み跡は、かすかで分かりづらい。赤い布の私的マーキングがあり、スカイライン方面へ誘導している。(12月、浅黄塚、写67, 68)
- ・旧東臼塚遊歩道は不明瞭なところがあり、最近の来訪者は少ないようだ。(12月、旧東臼塚遊歩道)
- ・西臼塚の歩道を塞いでいた丸太が歩道外に移され、歩道が乾燥していて、複線化した迂回路を使用せずに通過できた。(12月、L、参考 写55)



(写 65 宝永第三火口内の不明瞭な歩道)



(写 66 2012年9月、宝永第三火口内の歩道)



(写 67 スズタケが消失し踏み跡は分かりづらい)



(写 68 2006年10月、スズタケ覆われた旧歩道)

## ①-3 施設

## 詳細

- ・売店は6月中は週末営業ということで開いていた。自然教養林の通行禁止場所についての情報は掲示していなかった。(6月、水ヶ塚公園)
- ・クロスカントリーコースの路面に、ウッドチップが敷かれている。年間降雨量3,000mmを超える富士山南麓の多雨地帯で、側火山腰切塚の斜面に作られたコースでは、まとまった降雨のたびにウッドチップ流れ、侵食がおきている。12月クロカン・コースでは、ウッドチップがコース脇の丸太を乗り越え、コース外へ流出したままで、スズタケの実生部分に達していた。(7、9、12月、水ヶ塚公園、写69、70)
- ・公共トイレに寄ると、中で着替えている若い女性が数人いた。走った後に着替えているようだった。「更衣室がなくてこういう所で着替えるのは大変だね。」と声を掛けると「はい」という返事が返ってきた。(8月、水ヶ塚公園)
- ・旧スキー場跡にあるワイヤーは以前は浮いていて足を掛けそうだったが、石を置いてあった。(11月、H/I、写71)
- ・御殿場口新五合目の公衆トイレがエコトイレになった。ハイキング・コース開放時には、来訪者の便宜のため公衆トイレも使用できるようにしてほしい。また、携帯トイレの利用についても呼び掛けたい。携帯トイレ使用ブース設置も考えてほしい。(11月、H/Iコース、写72)
- ・二つ塚下塚頂上にある記念碑の周囲ブロック塀と鳥居の土台の破損が進んだ。(11月、H/I、写73、74)
- ・御殿場口新五合目の第一駐車場では、例年冬季は撤去されていたトレイルステーションの建物が残置されていた。(11月、御殿場口)
- ・西臼塚の公衆トイレは凍結防止の表示で閉鎖されていた。来訪者のため、可能な限り開放してほしい。開放できない場合は、協議会のホームページで案内してほしい。(12月、西臼塚)
- ・中宮八幡周辺は草が刈られきれいになっていた。説明板に「毎年10月最終日曜日に祭礼が行われている。」とあった。(12月、村山口)



(写69 クロカンコースのウッドチップの流出)



(写70 歩道や周辺植生へ広がったウッドチップ)



(写71 石で押さえつけた残置ワイヤー)



(写72 リニューアルされエコトイレに)



(写 73 二つ塚下塚頂上にある記念碑)



(写 74 鳥居)

①-4 車道・駐車場

詳細

・エバーグリーンライン車道から弁当場に入る道は、入口に立入り防止のウマガが3個置かれ、利用できなくなっている。途中、大きくえぐれている場所が数カ所あった。深さは最大で50～60cmくらい。深い所や浅い所はあるが、溝のようになっている場所は約45mくらいあった。7月に行った時よりもひどくなっていた。(6、7、11月、須山口、写 74、75、76)



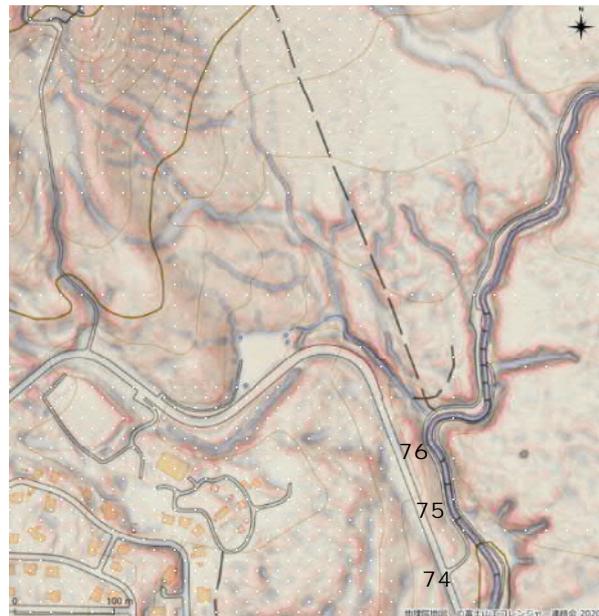
(写 74 弁当場アクセス道路の通行止)



(写 75 石の高さ約35cm。荒廃は45m続く)



(写 76 溝の深さは約60cm)



(弁当場周辺の静岡県CS立体図、数字は写真番号)

## ② 登山者・来訪者

登山者・来訪者		62
サブ・カテゴリー		件数
②-1	来訪者	46
②-2	立入禁止の無視	10
②-3	ランナー	6



## ②-1 来訪者

## ②-1-1 駐車

## 詳細

- ・水ヶ塚駐車場は5月25日まで閉鎖されていた。平日だったが、水ヶ塚公園には車は20台程駐車していた。湘南、大宮、多摩、春日部など県外ナンバーも多かった。森の駅は6月中は週末だけの営業。水ヶ塚道路わきの駐車は3台。県内2台、横浜1台。西臼塚ではトイレ側に駐車していた車は3台。県内ナンバー2台、湘南1台。須山御胎内入口では車は5台。県内5台。太郎坊洞門では車が4台とまっていた。県内2台、湘南、八王子。(6月15日)
- ・日曜日だったが、天気が悪かったこともあり御胎内入口と水ヶ塚上(須山口登山歩道の入口)には車は停まっていなかった。水ヶ塚駐車場には数台の車があった。(6月28日)
- ・平日だったが、スタート時点での水ヶ塚公園の駐車場の車は5台以下。(7月28日)
- ・土曜日でスカイラインの御殿場口付近やその他登山道入口には、連日多くの駐車車両が停まっている。(8月15日)
- ・平日だったが、水ヶ塚駐車場には30台くらいの車が停まっていた。(8月17日)
- ・土曜日で、水ヶ塚駐車場はキャパの20%程度の利用であった。殆んど自家用車とバイク。観光バスはゼロ、校名の入ったマイクロバス2台。(8月22日)
- ・土曜日で、西臼塚駐車場(西側)には数台の車。水ヶ塚公園駐車場の車は、8時頃60台程度で帰りは40台程度に減っていた。(9月5日)
- ・平日だったが、水ヶ塚公園駐車場の車は、8時頃15台程度で、10時過ぎには、貸切バス5台を含む多くの駐車があった。(9月9日)
- ・平日で、水ヶ塚公園駐車場の車は、12時頃10数台程度。(10月14日)
- ・晴天に恵まれた週末で早朝から多くの車が駐車していた。(10月31日)
- ・平日で、水ヶ塚公園駐車場の車は、朝8時頃6台程度。(11月9日)
- ・土曜日で天気が良く、水ヶ塚公園駐車場の車は、朝8時頃約20台程度で、15時頃は約70台程度だった。(11月14日)
- ・日曜日で水ヶ塚駐車場には多くの車があった。(11月15日)
- ・土曜日で水ヶ塚公園駐車場の車は朝8時は約20台、16時頃は約25台程度。(12月5日)
- ・平日で水ヶ塚公園駐車場の車は朝8時は2台、13時頃は約10台程度だった。(12月23日)
- ・休日で雪はなかったが、水ヶ塚駐車場には環境パトロール開始時点では車が20台くらいあった。終了した時には30台くらいになっていた。(2月11日)

## ②-1-2 来訪者

## 詳細

- ・来訪者から富士山の魅力を再認識したという声があった。そして、あちらこちらの荒廃している場所を見て、自然の力の凄さを改めて知り、富士山の自然を守っていききたいという思いも聞くことができた。(7月、須山口)
- ・平日でパトロール中に会話した来訪者は1名。(7月28日、D/E)
- ・お盆休み初日の土曜日で晴天に恵まれたこともあり、早朝から訪れるハイカーも見られたが、通行可能ルートが限られているためか、全体としては少ない。往復3時間の道中に会ったハイカーは計13組。(8月8日、D)
- ・お盆休み中で好天の土曜日のため、水ヶ塚公園を中心に多くの来訪者が訪れていた。Fコース・幕岩：6組。Eコース：4組。南山林道：1組。幕岩から先の禁止エリアへの立入者は確認されなかった。(8月15日、F、E、南山林道)
- ・平日。須山御胎内から須山下山道一合五勺間に会った人は6人。2人ずつ3組。幕岩には3世代の家族らしい7人のグループがいた。他に2人連れ。下山道一合五勺から登山道一合五勺間に会った人は2人連れが2組。途中で会った人たちはEコースを歩いていた。(8月17日、E、F)
- ・土曜日だが、天気が崩れるとの予報から先週末から比べると来訪者は少なめであった。御殿庭下までのDコース途上では8名(単独2組、ペア3組)が下山してくるとすれ違った。1人速足で登る工事関係者があった。Kコースは1組。(8月22日、D、K)
- ・土曜日だが、立入禁止区域も含めて、コース上で会ったハイカーはなし。立入禁止区域のハイキング・コースは、使われている様子はあまりなかった。(9月5日、A、B、C-2、L)
- ・今夏、立入禁止となっているが、使われている様子はあまりなかった。(9月9日、H)
- ・平日で、腰切塚Kコースでは来訪者に出会わなかったが、御殿庭下までに13人に会った。二人連れのハイカー4組。男性の単独者が5人。(9月9日、D、K)
- ・平日で、来訪者7人に会った。キノコ採りの2人連れ2組。犬をつれた男性が1人。高齢の二人連れハイカー1組。キノコ採りの来訪者が「今年は不作」と話していた。(10月14日、D/E)
- ・土曜日だが、往路途中では来訪者を見かけなかった。幕岩からの復路では多くのハイカーを確認できた。7組14名。Iコースでは、夏場のものと思われる踏み跡は残っているが、路面の砂礫が全体として締まっているため、最近の利用者も少ないようだ。(10月31日、F、H/I)
- ・平日で、パトロール中に来訪者3人に会った。(11月9日、C、D、H)
- ・土曜日で、来訪者11人に会った。二人連れが4組、単独が3人ほとんど大半が水ヶ塚、須山御胎内入口から二つ塚下塚往復のようだ。(11月14日、F、H/I)
- ・晴天に恵まれた週末だったが、ハイカーは数えるほど。6組8名。(11月14日、C、D、H)
- ・日曜日。十里木別荘地付近は「遊歩道」の看板があり、写真を撮る人、野鳥の観察、犬の散歩など思い思いに楽しんでいた。来訪者は十里木別荘地付近の遊歩道で4人。それ以外は登山歩道上では会わなかった。(11月15日、須山口)
- ・土曜日だが、コロナ感染拡大の影響からか、ハイカーは数えるほどであった。3組3名。(11月21日、C、D、H、I、F、E)
- ・週末だが、パトロール中に来訪者に出会わなかった。(12月5日、村山口、B、A、L)
- ・パトロール中に来訪者に出会わなかった。(12月23日、D/E、K)

## ②-2 立入禁止の無視

## 詳細

- ・ 1名は、まさに幕岩・御殿場口間ハイキング・コースの立入禁止表示を超えて、立入禁止区域へ侵入しているところを砂沢右岸から遠望した。(7月28日、I)
- ・ Dコース終点の御殿庭下から先が立入禁止になっているが、来訪者との会話から、多くのハイカーが宝永火口まで行く予定で来ていることがうかがえた。実際、立入禁止を無視して宝永火口方面へ向かうハイカー1名を確認した。Dコースを利用するハイカーのほとんどは、終点の御殿庭下がどのような場所かわからずに訪れており、そのためさらなる眺望を求めて立入禁止の先に歩を進めてしまうことにつながっているのではないかと(8月8日、C、写77)
- ・ 宝永火口まで行ってきた1組もあり、「6合目辺りには7~8名の登山者がいた」との話を聞く。(8月22日、C)
- ・ 一人は「水ヶ塚から山頂往復をした。疲れた」と話した中年の男性。若い女性二人組は、「宝永火口縁まで登った。10人ぐらいと出会った」と話していた。(9月9日、C、富士宮口)
- ・ 4連休の中日で天候にも恵まれたため、多くの来訪者が訪れていた。早朝からの登山者はほとんどが宝永火口を目的地にしていると考えられ、立入禁止エリアでも多くの登山者を確認した。今回午前10時までの早い時間だけでも宝永火口周辺で10組14名と出会った。話を聞いてみると、山頂までの登山ができないため宝永火口あたりまでは行きたいとのことで、立入禁止であることは承知の上で、自己責任だとの回答であった。Hコースは踏み跡もしっかりしており、多くの登山者が利用していることがうかがえる。C1コース：7組10名+外国人グループ40数名。Hコース：3組4名。三辻～幕岩分岐間：2組2名。(9月21日、C、H、三辻・幕岩上連絡路)
- ・ 御殿庭から宝永第二、第三火口周辺では、比較的新しい踏み跡がみられ、立ち入り規制時も多く来訪者がCコースやHコースを利用したようだ。(11月9日、C、H、写78)



(写77 立入禁止の宝永火口方面へ向かう 登山者)



(写78 宝永第二、第三火口鞍部の踏み跡)



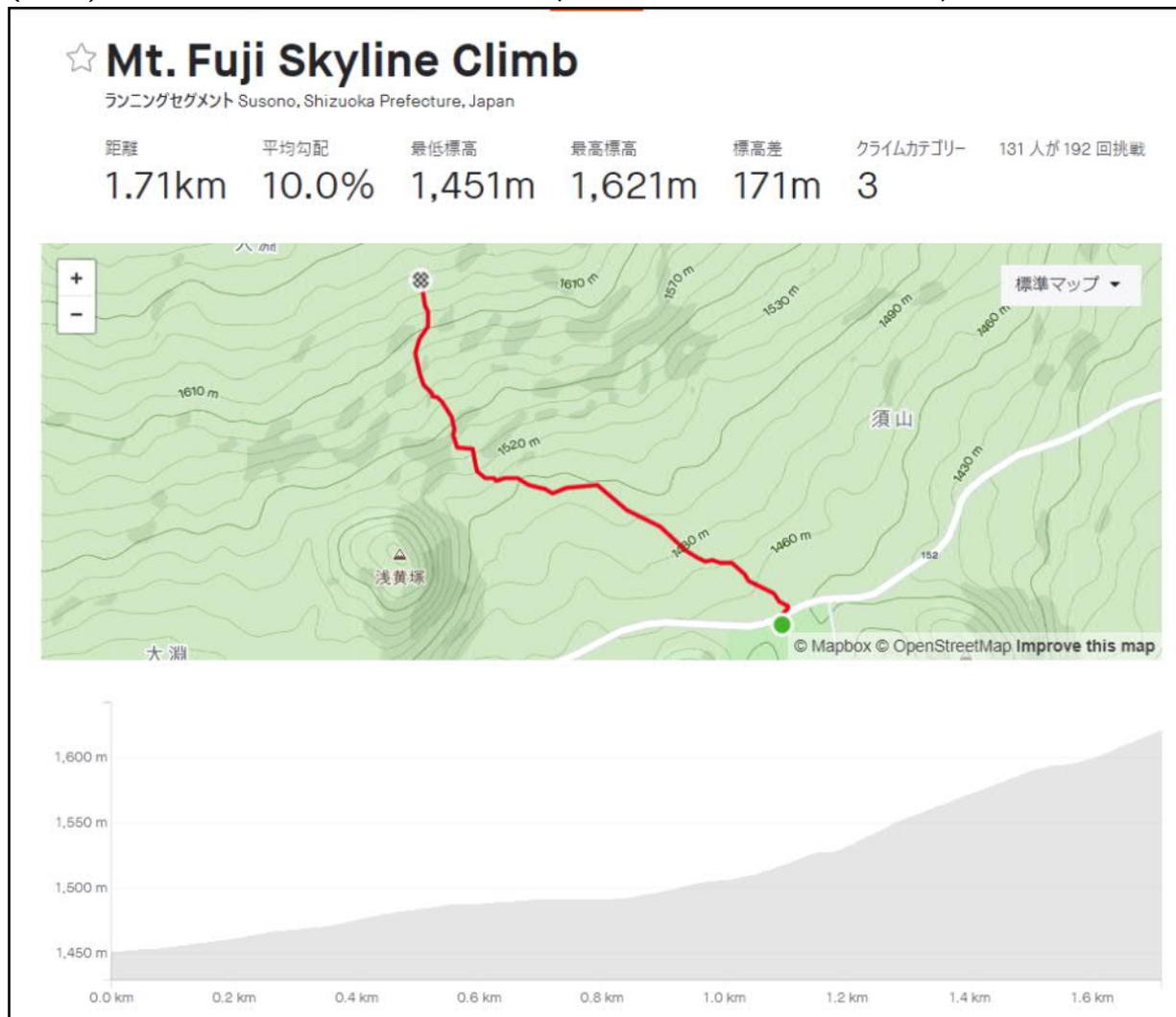
(御殿庭下 切断、補修が繰り返されたテープ。来訪者は眺望を求めて立ち込んだのかもしれない)

## ②-3 ランナー

## 詳細

- ・クロカン・コースや駐車場を走る高校生グループ約30名を見た。(7月28日、水ヶ塚公園)
- ・トレーニングコースを走っている人が何人かいた。(8月17日、水ヶ塚公園)
- ・クロスカントリー場を某大学の団体がランニング・トレーニング中であった。(8月22日、水ヶ塚公園)
- ・男性一人がトレラン姿で「上までパトロール」と話していた。(9月9日、D)
- ・**ソーシャル・ネットワークの Strava によれば、この区間は、現在でもトレイル・ランナーによる、タイムトライアル・レースが行われている。**(10月14日、D/E、注10)
- ・2人はトレイルランナー。(11月14日、H/I 二つ塚)

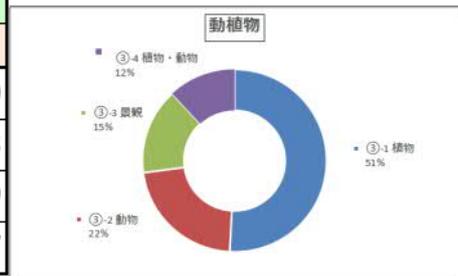
(注10) タイムトライアル・レースのコース (ソーシャル・ネットワークの Strava)



「①-1-3 私的マーキング」、「①-2-2 通過困難箇所の回避など歩道の拡幅・複線化、周辺植生の損傷」で報告したように、水ヶ塚上から須山口 1.5 合目までの区間でタイムレースが行われ、ネット上にその記録が拡散されている。この区間では、131人が192回タイムトライアルを行い競走コースとなっている(ソーシャル・ネットワークの Strava)。走行速度が増すほど、路面への衝撃は大きくなる。歩きづらい本来の須山口登山道を外れ、目立つピンクの私的マーキングを辿り、林内の植生を損傷しながら、ランナーは直線的に走行する。

③ 動植物

	動植物	59
	サブ・カテゴリー	件数
③-1	植物	30
③-2	動物	13
③-3	景観	9
③-4	植物・動物	7



③-1 植物

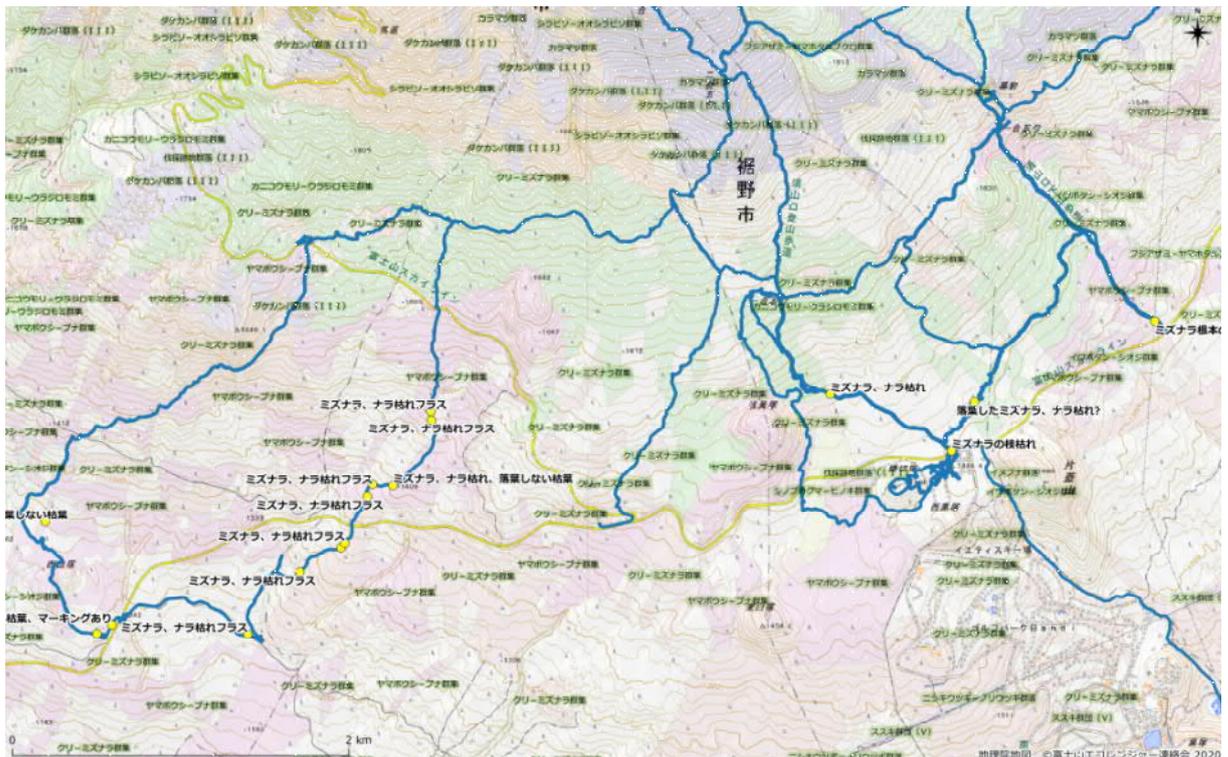
植物関連では、以下の気づきが注目される。

(1) 外来種植物の拡散

以前から多かった「外来種」、「国内外来種」の報告が、今年度も多く見られた。水ヶ塚下の大調整池、フジバラ平の調整池周辺では外来種のハルザキヤマガラシの大群落が見られ、さらなる拡大が危惧される。水ヶ塚公園に見られるセイヨウウツボグサも駆除などの対策が要請される。富士山自然休養林のハイキング・コースでは、国内外来種のオオバコ類が広範囲にみられた。

(2) 「ナラ枯れ」の侵入

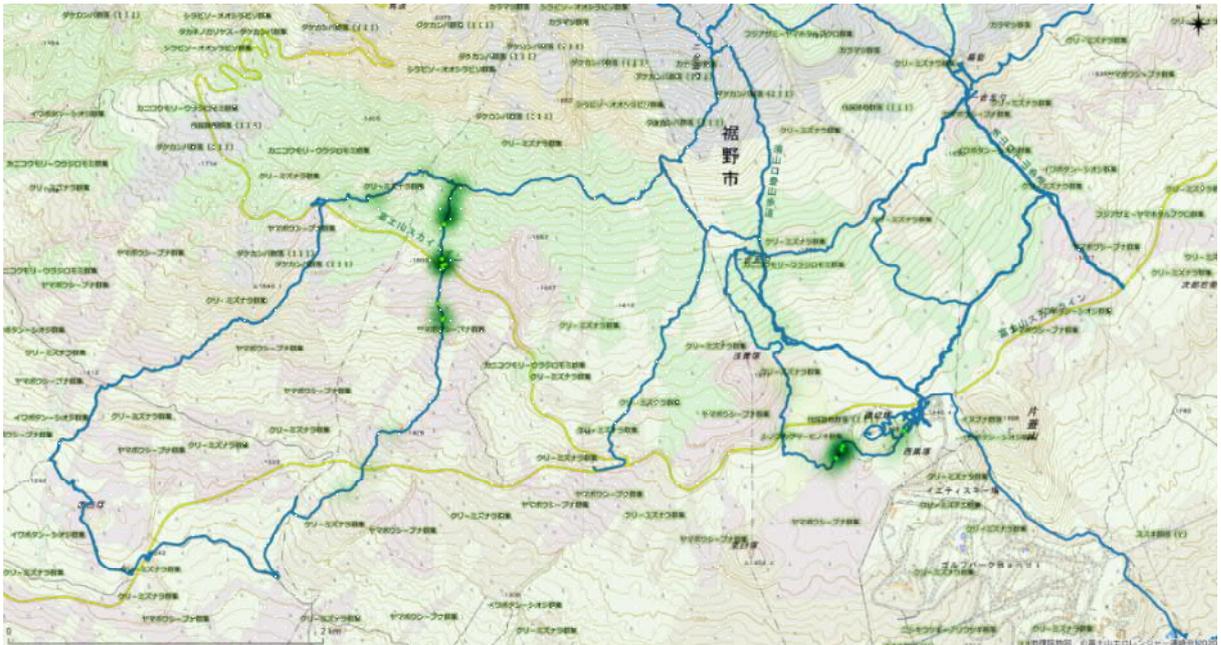
「ナラ枯れ」が侵入し、富士山自然休養林のハイキング・コースでは、標高 1500 メートル付近までのミズナラに確認された。



(図 黄色の丸印が「ナラ枯れ」地点。根本のフラス(木屑)や落葉後に残存した葉で確認)

(3) スズタケ実生の群生

自然休養林の至るところでニホンジカなどの影響により林床のスズタケが消失し、林内の景観が一変している。今年度は初めてスズタケの実生が一定範囲で成長しているところを見た。ササ類の回復には数十年かかるといわれている。今後、スズタケの成長を注視していきたい。



(図 黄緑の丸印がスズタケ実生の群生地点。緑の濃淡は通常のスズタケが見られるところ)

### 詳細

- ・フジバラ平～ゴルフ場大調整池周辺の陽当たり良い所にハルザキヤマガラシがあちこちで大群落を作っていた。(6月、須山口、写79、80)
- ・バラ科植物は満開を過ぎていた。(6月、須山口)
- ・各所で国内外来植物のオオバコ類をみた。特に須山口入り口、登り1.5合、南山休憩所、須山口下山歩道の幕岩分岐点、ガラン沢分岐では群生していた。腰切塚では、踏み固められた各所で国内外来植物のオオバコ類をみた。(7、9、12月、D/E、F/I、B、C-2、高鉢駐車場、水ヶ塚公園、村山口、写81)
- ・クロカンコース脇で、外来種のセイヨウウツボグサが群生していた。(7月、水ヶ塚公園、写82)
- ・アスファルトを割って成長し、開花しているフジアザミがある。荒原に生える植物の逞しさを感じた。腰切塚へ登る入り口付近には、以前火山荒原のような低栄養の砂地に生息するフジアザミの大群落が見られた。クロスカントリーコース造成後は、10数株程度に減少している。富栄養化をもたらすウッドチップ流出が度々みられるので、影響を注視したい。(8、9月、水ヶ塚公園、写83、84)
- ・菌輪(フェアリーリング)が数か所あった。(9月、B、写85)
- ・ミズナラは枯れ枝が目立ち始め、来訪者へ落枝注意案内が出ている。原因が、「ナラ枯れ」病なら、富士山南麓のミズナラに拡大する恐れがある。(9月、西臼塚駐車場)
- ・水ヶ塚近く、落葉時期前のミズナラの枝に葉が見えない。「ナラ枯れ」か。(9月、E)
- ・水ヶ塚上のハイキング・コース入口付近にあるミズナラの枝が枯れている。「ナラ枯れ」の可能性ある。根を確認したらフラス(木屑)がついていた。カシノナガキクイムシによる「ナラ枯れ」と思われる。ミズナラの「ナラ枯れ」が新たに標高1,490m付近で見られた。(10、11、12月、D/E、写86)
- ・場所によっては、ニホンジカの食害や一斉枯死により林床から消失したスズタケの新たな実生が見られた。(10月、D/E、写87)
- ・富士山生物群集保護林内の須山口登山歩道1.5合目付近の溶岩上に比較的大きなヒノキの群生

がみられる。同じ保護林内の浅木塚ヒノキ群落とともに適切に保護されるようお願いしたい。(10月、D/E、写88)

- ・富士山生物群集保護林内の御殿庭周辺の亜高山帯では、日本固有の針葉樹「シラビソ」、「トウヒ」、「コメツガ」、「ゴヨウマツ」、「カラマツ」をみた。渡邊定元さんは『富士山を知る事典』の中で、「生態学的にみて護るべき富士山域の自然をあげると次のとおりである。第一は、亜高山帯の森林植生保全である。地球生態系の視点から日本の自然をとらえると、もっとも固有度の高いのは亜高山帯の森林群落である。富士山は日本列島のなかでその代表である」と指摘しその保護の重要性を訴えている。(11月、C-1、H、C・F連絡道)
- ・宝永第二、第三火口西側のカラマツは直立成長し、個体数も増えている。宝永第二、第三火口内の西壁や火口底のカラマツも成長し、数も増えたように思える。一方、宝永第二・第三火口鞍部の匍匐型のカラマツ(標高2300m)はあまり変化してないようにみえた。強風などが生育に影響しているのだろう。(11月、C-1、H、写89、90、91、92)
- ・登山道沿いの「ナラ枯れ」は入口近くの1本だけ確認した。Fコースの須山御胎内入口近くのミズナラの幹に小孔と根元にフラス(木屑とフン)を確認した。「ナラ枯れ」と思われる。須山御胎内へ向かう歩道沿いのミズナラの根元を見たが、フラスは確認できなかった。Iコースの御殿場口新五合目から幕岩への歩道沿いのミズナラの根元にもフラスは確認できなかった。(11月、F、I)
- ・火山荒原では、カラマツの成長が進んでいる。(11月、H/I、写93、94)
- ・火山荒原に見られたマツ類はいずれも二葉のアカマツだった。ゴヨウマツは確認できなかった。(11月、H/I)
- ・沢沿いを離れて林に乗り上げた場所に「ナラ枯れ」被害の木が1本あったが、それ以外は見かけなかった。〈参考〉11月8日に山梨県の富士風穴周辺に行った。大室山の麓にりっぱな板根を持つミズナラの巨木がある。その木が「ナラ枯れ」被害にあっていた。(11月、須山口)
- ・根元や幹にフラス(木屑)があり、木によっては、縮れて枯れた葉が、落葉せず枝についていた。ミズナラの「ナラ枯れ」が13本、標高1,475m付近まで見られた。(12月、大淵林道、村山口、西臼塚ふれあいの森、写95)
- ・いわゆる村山口登山道では、標高1,530mから1,650mにかけてスズタケの実生が群生していた。疎らなスズタケの実生は随所にみられた。同登山道のスカイライン登山区間交差からBコース高鉢駐車場にかけては、スズタケの枯れた桿(かん)が残っている。二合目林道から西臼塚にかけては、スズタケは見当たらない。(12月、A、B、村山口、写96)
- ・スカイライン周遊区間と交差した北側(標高1,400m付近)では、アセビの群生がみられた。溶岩流の上に比較的若いアセビが多い。(12月、村山口、写97)
- ・樹林帯(亜高山帯)では、林床によく似たコケ類のフジノマンネングサやコウヤノマンネングサがみられた。また、定点観測中のベンケイソウ科植物も初冬の様子がみられた。(12月、村山口、B、写98、99、100)
- ・高鉢南面の樹林帯では、歩道にブナの殻斗が落ちていた。実が無くなっているかシイナもあったが、実が残っている殻斗もあった。山の自然学クラブの方から「今年はブナの実が豊作で、実が充実している。採取した実の発芽率もよい」と聞いていたので、ブナの実を観察した。殻斗が多数あり、実も大きく膨らんでいた。(12月、A、写101)
- ・旧東臼塚遊歩道の標高1,440m付近でスズタケの実生が群生していた。また、須山口登山歩道西側や旧東臼塚遊歩道、Kコース南側で、疎らなスズタケの実生が随所にみられた。浅黄塚東南側、旧東臼塚遊歩道、Kコース南側ではスズタケの枯れた桿(かん)が残っている。須山口登

山歩道から旧作業道周辺では、スズタケは消失し、枯れた樺もほとんどみあたらず、見通しが効く林内となっている。(12月、旧東白塚遊歩道、浅黄塚、D/E、写102)



(写 79 結実したハルザキヤマガラシの大群落)



(写 80 ハルザキヤマガラシの結実と花)



(写 81 南山休憩所前のオオバコ類群生)



(写 82 水ヶ塚公園のセイヨウツボグサ)



(写 83 少数に減った腰切塚麓のフジアザミ)



(写 84 2008年白い採種袋をつけたフジアザミ大群落)



(写 85 菌輪: フェアリーリング)



(写 86 「ナラ枯れ」のミズナラ、根本の木くず)



(写 87 スズタケの実生)



(写 88 溶岩流上のヒノキ。比較的比較的大きな群生)



(写 89 カラマツは直立が増え、樹高が高くなった)



(写 90 2005年7月の同地点)



(写 91 匍匐型のカラマツは樹高など変化が少ない)



(写 92 2006年7月同地点)



(写 93 成長が早い火山荒原のカラマツ)



(写 94 2017年9月同地点)



(写 95 コケ類の付着したミズナラも「ナラ枯れ」)



(写 96 スズタケの実生が群生)



(写 97 溶岩流上のアセビ群生)



(写 98 初冬のベンケイソウ科植物)



(写 99 フジノマンネングサ)



(写 100 コウヤノマンネングサ)



(写 101 ブナの堅果)



(写 102 ススタケの実生)

環境パトロールで見た富士山南麓の花々



バラ科植物



アキノキリンソウ



キオン



タカネニガナ



フジオトギリ



フジアザミ



サワヒヨドリ

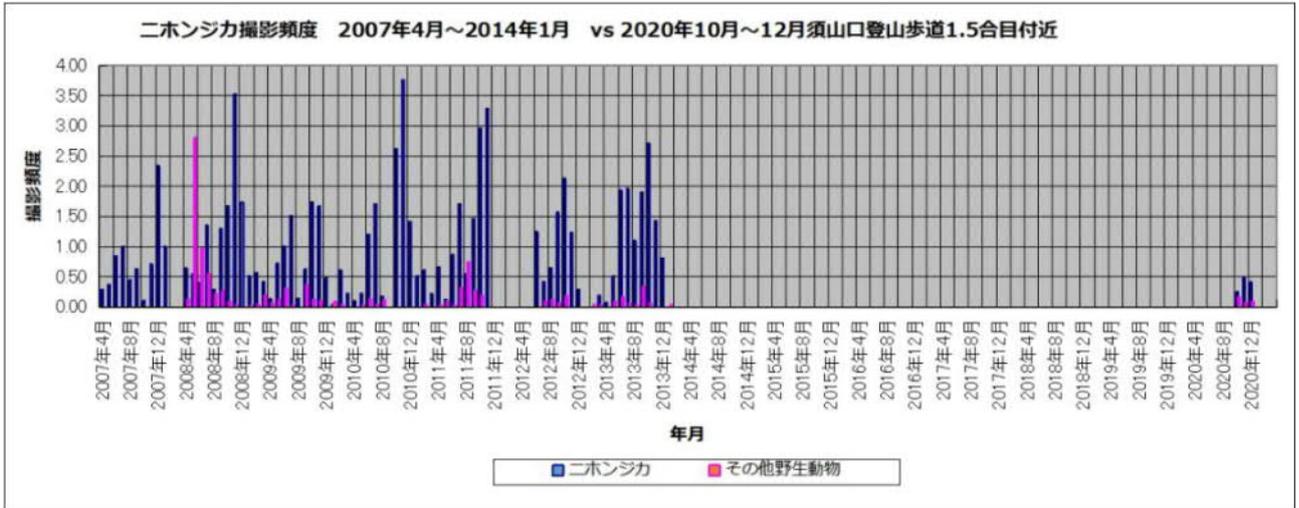


ダイヤモンドソウ

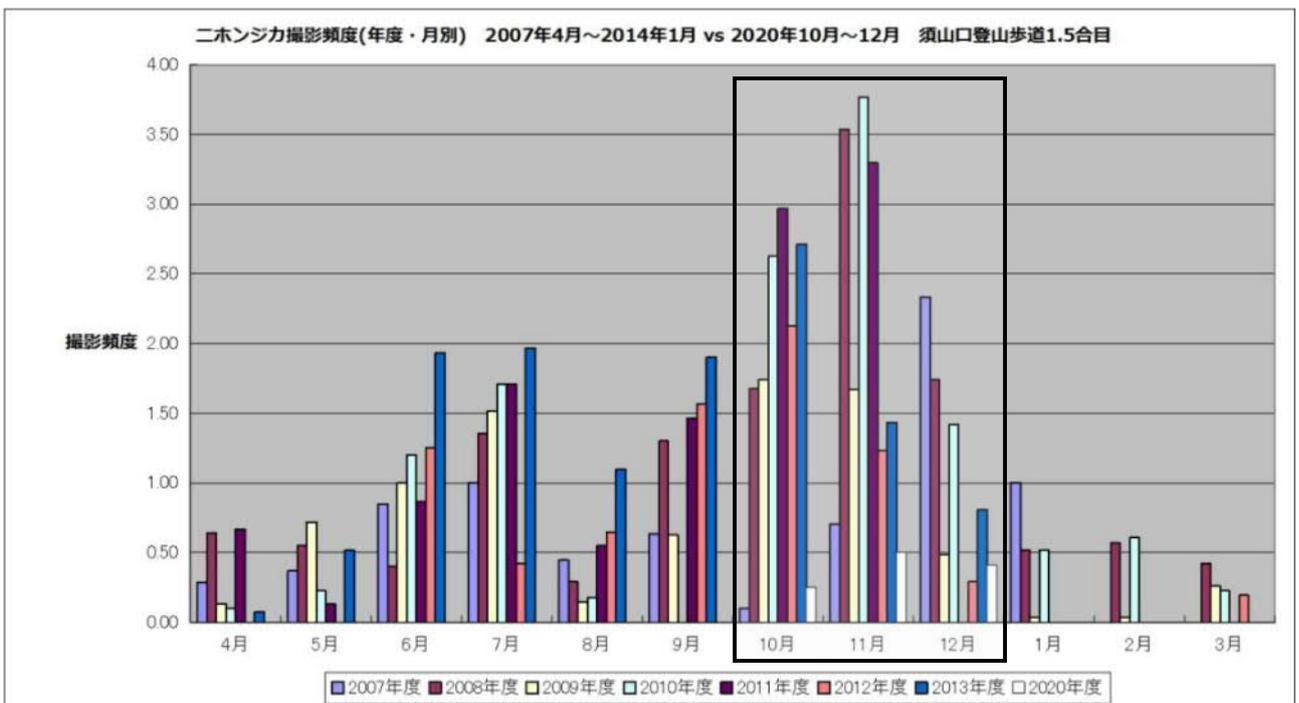
③-2 動物

今年度の環境パトロール中に、森林生態系に大きな影響がある二ホンジカを目撃したり、鳴き声を聞いたりすることは少なかった。樹皮はぎや糞など二ホンジカの痕跡は見かけるが、数年前に比べると比較的少なくなった印象だ。

須山口登山歩道 1.5 合目付近では、10月中旬から12月までの期間、二ホンジカ、二ホンイノシシ、二ホンアナグマ、ホンドタヌキなどが記録された。同一箇所で、2007年から2013年までの記録と比較してみると、記録日数あたりの野生動物撮影回数にあたる撮影頻度が二ホンジカで減少していた。

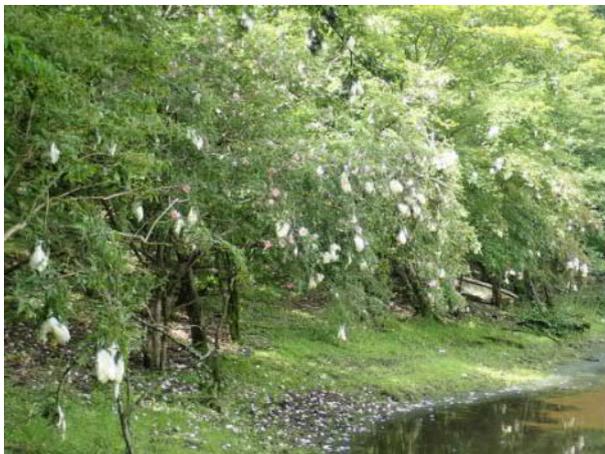


同地点では、二ホンジカは過去の記録で10月から12月に撮影頻度のピークを迎える傾向があるが、今回は12月を覗いて減少している。今回の撮影期間が短い(70日)ので、しばらくの間、同一場所での撮影記録を継続し、傾向を見てみたい。



## 詳細

- ・ガエル類の産卵泡塊が多数ある。ゴミ収集とハルザキヤマガラシ駆除をなんとか実現したいとつくづく感じた。(6月、須山口、写103)
- ・イノシシの糞(6月、須山口、写104)
- ・ガラン沢分岐辺りでアゲハ蝶の「カラスアゲハ」という青色の美しい蝶(9月、B)
- ・二ホンジカの目撃はなく、鳴き声もきかなかったが、登山歩道に入っしばらくウラジロモミの植林地をめぐる間で、二ホンジカの足跡がみられた。(10月、D)
- ・黄葉の終わりを迎えていたカラマツに霧氷がつき、そのカラマツの枝にルリビタキ♀が止まっていた。(11月、C、写105)
- ・二ホンジカの目撃はなく、鳴き声もきかなかったが、帰りのスカイラインで道路脇に二頭の雌ジカを見た。(11月、D/E、C、H)
- ・須山御胎内上近くで数頭の二ホンジカ小集団が砂沢方向へ移動していた。また、二ツ塚・御殿場新五合目間で、歩道近くの砂礫の上に、二ホンジカと思われる集団の足跡が数箇所みられた。(11月、F、H/I)
- ・八幡堂の近くでは、倒木の上にアズキナシと思われる漿果類の種を多く含む比較的大きな糞がみられた。ツキノワグの糞かもしれない。(12月、村山口、写106)
- ・いわゆる村山口登山道とBコース交差の近くで比較的新しい二ホンジカの糞をみた。(12月、村山口)
- ・いわゆる村山口登山道とBコース交差の近くの歩道では、ため糞が見られた。タヌキと思われる。(12月、村山口、写107)
- ・二ホンジカを目撃したり、鳴き声を聞いたりすることはなかった。二ホンジカの新たな痕跡も少なく、浅黄塚北の旧作業道周辺の二箇所と比較的新しい二ホンジカの糞をみた程度だ。(12月、D/E、浅黄塚、写108)
- ・須山口登山歩道1.5合目付近では、10月中旬から12月までの期間、二ホンジカ、二ホンイノシシ、二ホンアナグマ、ホンドタヌキなどが記録されていた。同地点の2007年から2013年までの記録と比較してみると、記録日数あたりの野生動物撮影回数にあたる撮影頻度が二ホンジカで減少していた。二ホンジカ撮影頻度は、過去と比べて大きく減少している。今回の撮影期間(70日)。(12月、D/E、写109、110、111、112)
- ・シカのものと思われる足跡や糞を見かけた。(2月、浅黄塚)



(写103 カエル類の産卵泡塊)



(写104 イノシシの糞)



(写 105 カラマツの枝にルリビタキ♀)



(写 106 漿果類の種を多く含む大きな糞)



(写 107 タヌキと思われるため糞)



(写 108 ニホンジカの糞)



(写 109 4尖角のニホンジカ♂)



(写 110 ニホンイノシシ)



(写 111 ニホンアナグマ)



(写 112 ホンドタヌキ)

③-3 景観

詳細

- ・自然休養林内は自然林が多く、素晴らしい所だ。春は新緑、秋は紅葉・黄葉を楽しませてくれる癒しの場所でもある。(8月、D、C-2)
- ・ガラン沢に行くコースはコケがとてもきれいで、ハイキングマップに保全対象として、紹介しても良いのでは。(8、9月、C-2)
- ・苔の林床が見事な場所もあった。苔の美しい樹林が広がっていた。溶岩の上に広がる苔の世界は見事だった。(9、12月、C-2、村山口、写113)
- ・歩道脇にコケ類や地衣類が生育し、庭園風景観がみられる。ここは、来訪者が歩道外へ踏み出さないよう保全対策が必須。(9月、C・H連絡路)
- ・現在、スズタケがほとんどなく苔庭のような景観となっている。しかし、15年前は、スズタケや倒木で苔庭の景観とは思えなかった。ササ類(スズタケ)は数十年をかけて回復すると言われている。十数年後、歩道周辺の景観は、見通しの効く林内から、15年前のように、背丈を超えるスズタケが繁る林内へと大きく変化する可能性がある。(12月、村山口、写114)
- ・雨上がりのパトロールであった。みずみずしいコケと、木々の間から差し込む陽に感動した。富士山をみると、雪化粧が美しかった。(12月、村山口、A、B、西臼塚、写115、116)



(写113 溶岩上の苔庭風の景観)



(写114 2005年スズタケが多く苔庭に見えない)



(写115 苔と陽と影の景観)



(写116 樹林限界が見える初冬の景観)

### ③-4 動植物

#### 詳細

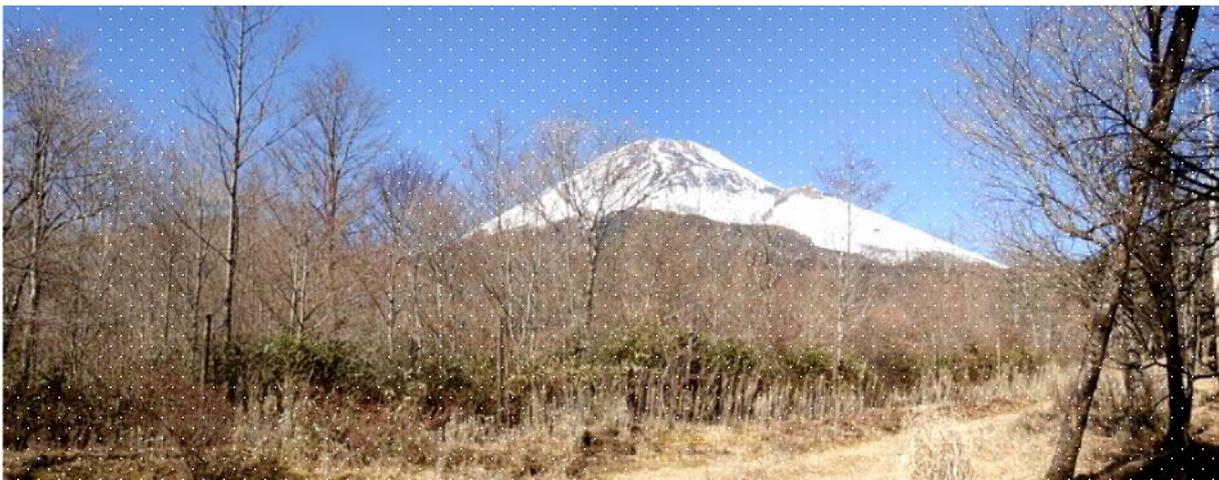
- ・御釜塚東側の沢の向こう側に新しい樹皮はぎの跡を確認した。(7月、須山口)
- ・登山歩道の横にある樹木。樹皮はぎの跡がある。だんだん枯れている。いずれは倒木の危険あり。(7月、須山口、写117)
- ・御殿庭付近にキオン、アキノキリンソウ、ヒヨドリバナなどの群落があり、そこに沢山のアサギマダラが吸蜜に飛び交っている(8月、D)
- ・立入禁止区間では、ニホンジカによる食害が見られた。(9月、H、三ツ辻・幕岩上連絡路)
- ・枯れたフジアザミは、茎から上部の頭花を喰いちぎられたようだ。(11月、H/I、写118)
- ・新たなシカの食害を2ヶ所確認した。(12月、村山口)
- ・フェンスの中は向こうが見えないくらいスズタケなどの植物が繁茂しているが、フェンスの外は見通しがいい。その差は歴然としている。動物の食害の大きさがわかる。(2月、旧東臼塚遊歩道、写119)



(写117 樹皮はぎ、倒木のおそれ)



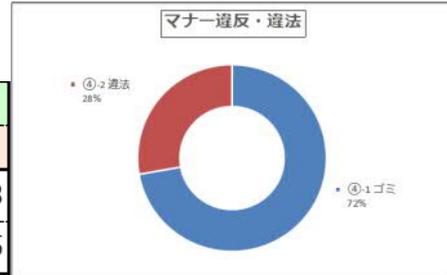
(写118 頭花が喰いちぎられたフジアザミ)



(写119 フェンス内外のスズタケなど植物繁茂をみると、ニホンジカなど動物の食害の大きさが分かる)

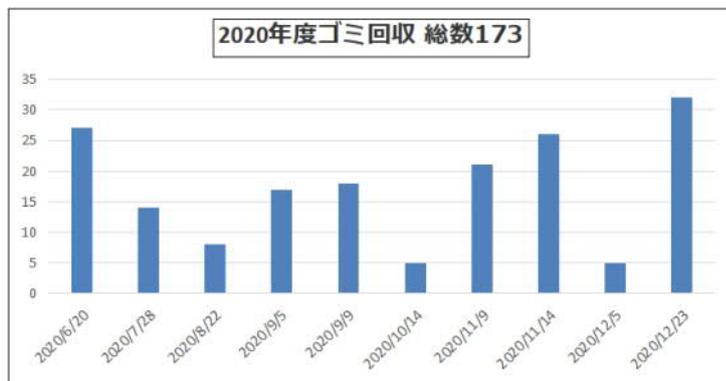
④ マナー違反、違法

	マナー違反・違法	18
	サブ・カテゴリー	件数
④-1	ゴミ	13
④-2	違法	5

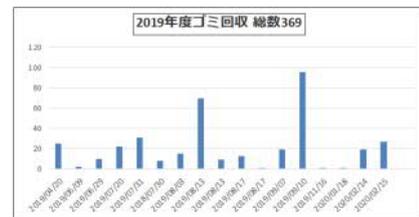


④-1 ゴミ

自然休養林のハイキング・コースでは一部立ち入り規制されていても、来訪者由来と思われる一定数のゴミを回収した。過去何年も報告している、個人では搬出が難しい大量の残置物が火山荒原や調整池に残されたままだ。来訪者の通行に支障があったり、景観を損ねている。



(2020年度ゴミ回収)



(2019年度ゴミ回収)

詳細

- ・今年もフジバラ平調整池の周囲、特に導水路の南側に大量のゴミが流れ込んでいる。余りにも多いため、拾うことを諦めた。大がかりな清掃活動を行う必要性を感じた。量的には軽トラ3～4杯か(6月、須山口、写120)
- ・今年も旧スキー場施設の残置ブロックやケーブル、大石茶屋対岸に残置されている大量のタイヤもそのままだった。来訪者の安全や良好な景観を維持するため、撤去をお願いしたい。(11月、H/I、写121)



(写 120 来訪者由来とは思えぬゴミの散乱)



(写 121 大量のタイヤ残置)

④-2 違法

詳細

- ・御殿庭下の立入禁止テープが切断されていた。応急復旧実施。(9月、C1、写122、123)
- ・御殿場口～四辻間にマウンテンバイクと思われる轍を数カ所確認した。大石茶屋下にもバイクの轍あり。(10、11月、H/I、写124、125)
- ・2019年1月に見た小屋らしい構造物は、そのまま放置されていて、利用している様子はなかった。(12、2月、浅黄塚西、写126、127)



(写122 切断された立入禁止テープ)



(写123 応急復旧実施)



(写124 カラマツ林内に続く轍)



(写125 ニツ塚方面へのびる轍)



(写126 使徒不明の小屋風構造物が残置)



(写127 2019年1月、構造物の状態)

## ⑤ 全般

## 詳細

- ・コロナ禍の中での合同環境パトロールで、移動中は一定の距離を保ちながら行動し、会話時にはマスク等の着用により安全に配慮した。(6、8、9、11、12月)
- ・わずか1カ月しかたっていないのに大きく変化した場所がたくさんあった。定期的にパトロールすることの重要性を感じた。(7月、須山口)
- ・パトロール当日は二ホンジカ駆除作業日で危険回避のためルートを変更した。(9月、村山口)
- ・今年は梅雨後から、自宅付近での湧き水の量が多い。富士山の降水量の影響かと思う。真夏に一時減ったが、最近また増えている。(9月、富士市)
- ・ルート上には自然保護や来訪者の安全などを考えて手が加えられている場所がいろいろあった。ボランティアの環境パトロールで施設・設備などの損傷を報告し、それが関係者の方により補修され、来訪者の安全や便宜、自然環境の保全につながったことを確認できたときには、「やりがい」を感じる。(11月、C、F、H、I)
- ・世界文化遺産に登録された須山御胎内・須山下山歩道1.5合目間では、昨年まで、派手なピンク色の私的マーキングが設置され、迂回の踏み跡へ誘導したため植生を損傷し、世界文化遺産の風致景観を損なっていた。しかし、今回は下山歩道が整備され歩きやすくなり、派手な私的マーキングほとんど目につかず、本来の下山歩道周辺の自然環境を体験できた。(11月、F)
- ・同行者は初めてのコースで「富士山の自然、歴史を知り体感できるコースで、歩いてよかった」、「錆びた鉄管があり何かとと思っていたらその昔水ヶ塚水源から須山集落まで水を引いていたと知り驚いた。先人の苦勞がしのばれる」などと言う感想だった。(11月、須山口)
- ・8時30分集合であったが、その時刻には雨で霧も出ていた。天気予報では朝方まで雨は残るが曇りで昼頃からは晴れるということだった。そのため1時間くらい様子を見ることになった。雨が止んだので9時20分に出発した。雨(雪)上がりの景観が美しく、来訪者は落葉の遊歩道をクッションのきいた気持ちの良い陽だまりハイクが可能。(12月、A、B、L、村山口)
- ・林道入り口ゲートの駆除事業案内看板が新しくなっていて、12月1日から3月25日まで延長されていた。(12月、大淵林道)
- ・富士山の文化的歴史に少しだけでも触れた感じがした。これを機会に富士山の歴史にも注目した文化財の保護活動も行って行きたいと思う。(12月、村山口、写128)
- ・12月までは、富士山南面の雪は、ほとんど無く雪が少ない。(12月、写129)
- ・1月になって積雪が多くなったが、今日は雪がなかった。しかし、ところどころに凍った場所があったので転倒しないように注意した。(2月、D/E)
- ・自然林や苔が美しい。なだらかな道が続く。環境保全ができれば、年配者や家族連れなどが自然に親しみながら歩くことができると思う。(2月、旧東臼塚遊歩道)



(写128 中宮八幡堂の再建された祠)



(写129 12月下旬でも雪がない富士山南面)

## ⑥ 登山道周辺の地形・地質変化

### 詳細

- ・崩壊崖地点、登山道表層流出。毎年の合同環境バトロールで回復の難しさを痛感する。(6月、須山口、写 130)
- ・幕岩周辺の砂沢右岸も崩落が進み、新たな倒木があった。(7月、F、写 131)
- ・休憩所下の林内は火山礫に覆われ、林床の植生が見えない。(9月、南山林道、写 132)
- ・旧ゴルフ場の東側の沢は侵食が激しかった。(11月、須山口、写 133)
- ・ガラん沢、不動沢、日沢など沢筋は崩壊が増々酷くなっていく。(12月、B、写 134、135)
- ・水源地周辺でも、大小の崩落、侵食が見られる(2月、須山口)



(写 130 旧歩道が崩落した崩壊崖の侵食すすむ)



(写 131 幕岩近くの砂沢右岸の崩壊すすむ)



(写 132 林道脇の林床が火山礫に覆われる)



(写 133 侵食崩壊がすすむ涸れ沢)



(写 134 年々崩壊がすすむ日沢の渡渉地点)



(写 135 同)

## ⑦ 来訪者・登山者支援

### 詳細

- ・高齢の男性来訪者が、登山歩道からかなり外れて、スズタケが消失し、見通しが効く林内を歩いていた。来訪者の安全のため、声がけし、歩道を利用するようお願いした。(9月、D/E)

以上